

商法理由書 第一卷

司法部記錄文庫
第七百十九號
二冊
內

第五號
第二架
第八

司法部記錄課藏書
第一二號

司法部
第五二號
寄贈圖書文庫

X
S
1



XB400
S 24
1 a
124-1a-d
T.C.

子

商法理由書

自第六百九十九條
至第七百三十三條

第十二章 為替證券及レ引出切手

總則

第六百九十九條

為替證券ハ或ル金額ヲ相違ナク支撐フ可キ旨
ヲ明記シ指圖式又ハ無記名式ニテ發行スル信
用證券ニシテ合法ノ原因ヲ當然含有スルモノ
タリ

為替ヲ改州ノ意義ニ依テ解釋スルニ舊時ハ
金錢ノ引換ヘ即チ甲幣種ヲ乙幣種ニ交換ス
ルト云々ニ次ニ其引換ヘノ金錢ヲ拂フ為メ
ニ他人ニ向ケタル狀ヲ稱シ又其次ニ幾許ノ
金高ヲ相違ナク拂フヘキ為メニ嚴則ニ基イ

テ振出しタル融通券ヲ指ス欧州ニ於テ斯
ノ如ク其意義ノ漸次ニ成育シタルヲ明瞭
ニ了解スル為メニハ為替ノ起由及ヒ使用ノ
事ニ就キ左ノ例ニ着眼スルヲ必要トス
若シ甲ノ外國人本邦ニ於テ商品ヲ買求メ
カ為メニ千圓ノ價アル外國ノ貨幣ヲ所持シ
一月一日ニ横濱ニ着航セシ其外國貨幣ヲ使
用スルヲ能ハサレハ横濱ニ在ル本邦ノ乙銀
行ニ頼テ其千圓ノ高ヲ本邦ノ貨幣ニ引換ヘ
サルヲ得ス是レ則チ最モ古キ為替ノ意義ナ
リ
甲ノ外國人東京ニ於テ商品ヲ買求メ二月一

日前ニハ其取引ヲ為サス一月一日ニ横濱ニ
於テ其貨幣ヲ使用スルヲナクシテ二月一日
後ニ東京ニ於テ之ヲ使用スルヲアリトセン
歟甲ノ外國人ハ一月一日横濱ニ於テ其千圓
ヲ請取ラシメテ二月一日ニ東京ニ於テ之ヲ
請取ラシメテ横濱ニ在ル乙銀行ニ依頼ス是
レ其金錢ヲ携帯スルハ安全及ヒ便利上良策
ニ非ラサレハナリ乙銀行其依頼ニ應シタル
ハ東京ニ在ル丙銀行ニ宛タル狀ヲ甲ニ與
エ以テ二月一日ニテ其千圓ヲ丙銀行ヨリ請
取ラシムヘシ其狀ハ凡ソ左ノ如ク記載スヘ
シ

二月一日ニ某甲(又ハ其指名人)ニ金千圓ヲ
拂フヘシ

(但シ金額受取)

東京 横濱千八百八十一年一月一日

丙某殿

乙某

甲ノ外國人ハ此狀即チ手形ヲ以テ東京ニ趣
キ而シテ二月一日ニ丙銀行ヨリ千圓ヲ請取ル
トテ得ヘシ今其手續ヲ論スレハ甲ハ引換ヲ
為シタル貨幣ヲ横濱ノ乙銀行ヨリ請取ルニ
非スシテ東京ニ於テ他人ヨリ之ヲ請取ルモ
ノナリト雖モ其實ハ千圓ヲ引替ヘ之ヲ東京
ニ送致シタルモノトナフヘシ然レモ甲ハ其

受ケタル狀ニ依リ東京ニ於テ始メテ千圓ヲ
請取ルモノナレハ夫迄ノ間千圓ニ代ルヘキ
モノハ其狀トス此金ト狀トハ甲ニ對シテハ
實際同一ノモノナリト雖モ此狀ニシテ一般
ニ使用スルノ習トナリタル後ニ至リテハ為
替(細)カニ言ヘハ為替手形ノ名稱ヲ專ラ右ノ
狀ニ用ヒ其引替ヘタル現金ニ用井ルナリ
然レモ是レ其狀ニ據テ拂渡スヘキ金額ヲ指
スナリ明瞭ナリ

蓋シ為替手形ノ使用ハ或ハ各種ノ貨幣ヲ交
換スルナリヨリ生シタルナリト雖モ其使用
ハ之レニ止ラズ為替手形ハ他ノ權利ノ名稱

・對シテ拂フヘキ金額ニ就テモ之ヲ作ル
ヲ得ヘシ是即チ方今ノ方法ニシテ商業上ニ
於テハ為替金額仕拂ヲ除クノ外各種ノ支拂
多クハ為替ヲ以テス例ヘハ商呂ヲ横濱ニ持
束タル外國人之ヲ同所ニ賣拂ニ代金ヲ東京
・於テ請取ラント欲スルハ為替手形ヲ請
取ルトヲ得ヘシ而シテ其他ノ拂金ニ就テモ
皆然リトス

今前ノ諸例ニ就テ之ヲ見レハ甲ノ外國人ハ
乙レノ所持スル手形ヲ東京ニ在ル丙銀行ニ
示シ之ヲ交付スルニ非サレハ其金額ヲ請取
ルト能ハサルヤ必セリ何トナレハ其手形ハ

丙銀行ニ千圓ノ金額ヲ拂フヘキノ依頼アル
ヲ告ルモノナレハナリ故ニ手形ノ完全ヲ要
セシニハ左ノ如ク記載スヘシ

此證書(又ハ為替手形)ト引換ニテ拂渡スヘ
シ、、、、、

斯ノ如キ文例ハ自然ニ出ル者ナレハ總テノ
為替ノ冒頭ニ之ヲ記スルヲ通例トシ法律上
・於テモ之ヲ記入スルヲ以テ義務ト為スト
多シ

甲ノ外國人ニシテ東京ニ在ル丙銀行カ實ニ
其金額ヲ拂フヘキヤ否ヲ了知スルハ緊要ノ
事タルヘシ而シテ其拂ヒヲ得ルトハ初ニ於

ヲ確定スルモノニ非ス何トナレハ其手形ニ
ハ只依頼ノ旨ヲ記スルニ止マリ依頼ヲ拒絶
スルト有ルヤハ得テ知ル可カラサレハナリ
故ニ甲ノ外國人ハ仕拂期日前即チ二月一日
前ニ丙銀行ニ赴キ以テ其手形ニ記載シタル
金額ヲ拂フヘキ否ヲ尋問スヘキハ勿論ナリ
トス若シ丙銀行カ引受ヲシタルモ其手形ニ
署名シテ其旨ヲ表スヘシ之ヲ名ケテ為替ノ
引受トシテ之ヲ法律ニ掲示スルハ事ノ自然
ニ出タルモノナリ
然リト雖モ丙銀行カ其依頼ノ引受即チ為替
ノ引受ヲ拒ムトナキニ非ラス此場合ニ於テ

ハ其為替支拂ニ至ラス甲ノ外國人ハ再ヒ横
濱ニ在ル乙銀行ニ向ヒ費用及ヒ利子ヲ附加
シテ其為替金ヲ請取ラサル可カラズ即チ拂
渡ヲ受ケサル為替ノ所持人ハ其振出人ニ對
シ償還要求權ヲ有スルモノナリ
甲ノ外國人ニシテ商品代金又ハ其他ノ拂金
ノ為メニ東京ニ在ル丁ノ商人ニ其千圓ヲ拂
渡サント欲スルトアリ此場合ニ於テハ其手
續ニニツアリ乃チ甲ハ其千圓ヲ二月一日ニ
丙銀行ヨリ請取リテ之ヲ丁ニ拂渡スカ又ハ
丁ニ乙銀行ノ為替ヲ與ヘテ丁ハ甲ニ代リ丙
銀行ヨリ其千圓ヲ請ムニ在リ右様為替ノ讓

渡ヲ為ス片ニモ其旨ヲ手形ニ記載シ以テ疑
惑及ヒ錯誤ヲ生スルナカラスヘシ其記
載證書ノ裏面ニ於テシ表面ニ在ル為替手形
ノ文面ト混亂スルナカラスヘシ即チ裏
書ナリ

裏書ハ左ノ如ク記載スヘシ

拙者ノ代リニ丁某ニ、、、、、、

月日某地 甲某前所持人ノ署名

新所持人即チ裏書讓受人ハ右ノ裏書ニ依リ
某為替ニ就キ甲ト同一ノ權利ヲ得タルカ故
ニ丙ニ向ヒ其引受及ヒ拂方ヲ請求スルヲ得
ヘシ若シ其請求ヲ肯セサルハ乙銀行ナル

振出人ニ向ヒ償還要求ヲ為スヲ得ヘシ然レ
凡甲ナル裏書讓渡人ニ向テモ亦ト同一ノ要
求權ヲ有ス何トナレハ甲ヨリ千圓ノ現金ニ
代ヘ為替ヲ請取りタルハ猶ホ甲ノ乙ヨリ受
取りタルカ如クナレハナリ

且丁ナル商人ハ更ニ戊ナル他人ニ其為替ヲ
讓渡ス丁ヲ得ヘシ然ル片ハ其戊ナル者為替
ヨリ生スル權利ハ總テ之ヲ有スルカ故ニ若
シ其承諾又ハ拂渡ヲ為サルハ丁甲及ヒ
乙ニ向ヒ償還要求權ヲ有ス而シテ此ノ如キ
裏書讓渡ハ其為替ノ支拂期限ニ至ラサル間
前同様ノ効力ヲ以テ際限ナク繼續スルナリ

得ヘシ

斯ノ如キモノハ為替法ニ於ケル通常ノ取引
ナリトス然レモ尚ホ其變化及ビ附帶取引
リ是レ後ニ適當ノ條下ニ記載スル所アルハ
シ

斯ノ如キ為替手形ハ往々他拂為替ト名ツク
何トナレハ其手形ニ記載スル所ノ金額ハ自
己ノ手ヨリ出スニ非スシテ殆ント他所ヨリ
取寄スルノ意アリハナリ故ニ此意ニ於テ振
出ストハ隔絶シタル場所又ハ他ノ場所ニ於
テ拂出スノ事ナリ是ヲ以テ為替ヲ振出しタ
ル人ヲ振出人支拂ノ依頼ヲ受ケタル者ヲ支

拂人又為替ノ最初ノ持主ヲ受取人總テ其後
ノ持主ヲ裏書讓受人又ハ單ニ所有者ト名ク
獨國ニ於テハ受取人及ビ所有者ヲ乃ケ送致
人ト名ク何トナレハ自己ノ金額ヲ他ノ地ニ
送致スル者ナレハナリ

又前ニ掲ケタル為替ノ單一ナル書式ノ第一
例ニ又ハ其指名人ノ語ヲ記入シタルハ為替
受取人ニ其為替ヲ他人ニ與フル(即チ裏書讓
渡ヲ為ス)ノ權利アルヲ示シタルモノナリ

是レ為替ハ融通券即チ指名證券ノ性質ヲ有
スルニ因ル故ニ必シモ右ノ語ヲ用ヒサルニ
融通力ヲ有スルト勿論ナリ故ニ為替ハ右ノ

諸ヲ掲ケサルモ融通券タルノ性質ヲ失ハカ
ルヲ以テ之ヲ畫弧ノ中ニ記シタリ
凡ソ為替ハ差圖式又ハ無記名式(所持人ニ拂
渡スヘキモノ)ニテ振出ストテ得無記名式ナ
ルモハ惡意ナクシテ為替ヲ所得シタル人ハ
皆受取人タルノ權利アルモノニシテ其讓渡
ハ只其現有者ヲ變スルニ在ルノミ獨國ニ於
テハ無記名式為替ヲ以テ法律ニ戻ルモノト
ス何トナレハ各人皆之ニ因テ隨意ニ紙幣ヲ
發行スルニ當レハナリ(猶百法雜冊)然レモ白地
裏書(讓受人ノ氏名ナキ者)ヲ以テ讓渡ヲ為シ
得ヘキモノニシテ所持人ハ皆之ニ依テ為替

ヲ所得シ又振出人自己ノ指名ヲ以テ振出レ
白地裏書ヲ以テ讓渡ヲ為ストテ得ルハ疑ヲ
容レサルナリ之カ為メニ右兩場合ニ於テ無
記名式證券ノ効カヲ生スルニ至ル加之獨國
ノ為替法ニ於テハ無記名式為替ヲ全ク禁ス
ルノ明文ナク法律學ニ於テモ無記名式為替
ヲ通用シ得ヘキトハ既ニ有名ナル著述家ノ
是認スル所ナリ然レモ實際上ニ於テ無記名
式為替ヲ使用スルトナレハ何トナレハ是レ唯
タ引渡而乙ヲ以テ讓渡ヲ為シ得ルカ為メニ
支拂ノ安全ヲ減殺スルカ故ニ商學上ノ價額
乏シケレハナリ今他國ノ法律及事ノ自然ニ

基ツキ明ニ無記名式為替ヲ通用シ得ヘキ
ヲ明言シ以テ此點ニ就キ疑ヲ来タスナカラ
シケルハ便宜トスル所ナリ(商法雜誌第十卷

第四百七葉)

又前ノ書式第一例ニ但シ金高請取ノ語ヲ附
記スルモノハ右ノ語若クハ之ニ類似ノ語ヲ
以テ為替ノ振出確實ノ取引即チ完全ナル權
利起由ニ依リタル一ヲ為替振出人ヨリ支拂
人及ヒ其他ノ關係人ニ告ント欲スル一ヲ示
スニ在リ右様ノ語ヲ用ユルハ欠クヘカラサ
ルモノニ非ラス何トナレハ為替ハ自アラ權
利起由アルモノト思料スヘキモノニシテ縱

令ニ此語ヲ附記シタルモ權利起由乏シキニ
於テハ一定ノ制限内ニ於テ異議ヲ唱フルヲ
得レハナリ是レ即チ獨法英法及ヒ米法ニ於
テ公認ヲ經タルハ疑ヲ容レズ佛國商法第百
十條ニ於テハ為替ニハ其受取りタル代價ハ
勿論其代價ノ種類即チ金錢ナルカ高品ナル
カ又ハ計算上ニ於テシタル等ヲ記スヘシト
定ムルト雖モ此規則ハ佛國法律學ニ於テ論
ヲ免レサルノニナラス商人社會ニ於テモ實
際之ヲ嚴守セズ何トナレハ他人ノ取引ヲ斯
ク明細ニ各人ニ周知セシケルハ人ノ欲セサ
ル所ナレハナリ故ニ斯ノ如キ規則ハ唯為替

ノ記載ヲ煩ニシ又以テ恣意アル人ニ故障申
立ノ具ヲ與フル所ノ無用ノ手續タルニ過キ
サルナリ

第一ニ注意スヘキハ相當ノ權利起由ヲ存セ
サルモ其為替ヲ元来無効トスルヲ得スト云
フ一是レナリ何トナレハ為替ヲ與フルハ間
接ニ金額ヲ與フルノ謂ニシテ其權利理由ノ
乏シキカ為メニ故障ヲ述ル一能ハサルハ猶
ホ權利起由ナクシテ得タル金高ヲ他人ニ拂
渡ス一ニ於ケルト同一ノモノナレハナリ權
利起由ノ欠乏ハ只振出人ト受取人トノ間又
ハ裏書讓渡人ト裏書讓受人トノ間ニ關係ア

ル而已ニシテ其為替ノ本来他人ニ對スル効
力ハ之カ為メニ變スル一ナシ是レ則チ為替
ハ自ラ權利起由ヲ有スルトノ言即チ英國法
律學ニ為替ニハ相當ノ權利起由アルモト
視做ストノ原則アル所以ナリ又裏書讓渡ニ
モ自ラ權利起由ヲ存スルカ故ニ必スシモ明
記ヲ須ヒス

又眞ノ為替手形ノ外尙約束手形ナルモノア
リ是レ他人ニ支拂ノ依頼ヲ為スニ非ラズシ
テ振出人自ラ其為替支拂ノ約束ヲ為スモノ
ナリ其書式凡ソ左ノ如シ
此為替ト引代、二月一日ニ某甲又ハ同人

差圖人：拙者ヨリ金千圓ヲ拂フヘシ
月 日 乙 某

斯ノ如キ為替ハ他拂ニ非サルカ故ニ亦列受
ヲ必要トセス振出人ハ其約束ニ由テ已ニ支
拂ノ義務ヲ負擔ス若シ裏書ヲ以テ之レヲ讓
渡ス時ハ其為替ハ他拂為替ト為リ讓渡人ハ
振出人振出人ハ支拂人讓受人ハ受取人ト視
做スヘシ然レ凡列受ハ此場合ニ於テモ必
ニ非サルナリ昔時英國ニ於テハ此為替ヲ為
替手形ト認メサリシト雖凡法律ヲ以テ之レ
ヲ改正セリ(如シテ)皇御告勅第三條其他各國
ノ法律ニ於テモ之ヲ眞ノ為替手形ト視ルハ

疑ヲ容サルナリ

為替手形：ハ必ス一定ノ金額ヲ無相違拂フ

ヘキナリ記サ、ル可カラズ故ニ為替手形：

依テ其記載ノ金額：超ヘテ要求シ又利子費

用其他為替：依リテ起リタル取引ノ費用ヲ

要求スルナリ得ス又其金額ノ支拂ハ無制限

ニシテ未必條件又ハ他ノ事件ノ履行又偶生

事件ノ發生：關係ヲ有セシムルヲ得ス何ト

ナレハ右様制限ヲ附記スルハ最早其手形

ノ支拂不確實トナリ其使用ノ目的ヲ空シフ

スルニ至レハナリ無相違支拂トハ必ス支拂

ニ明約又ハ黙約ヲ以テ他ノ事情ノ未總ヲ受

ケレノサル下ヲ示スモノトス是レ第一ニ為
替手形ノ引出切手等ト區別アル所以ナリ蓋
シ引出切手~~等~~他ノ點ニ就テ甚タ為替手形ニ
類スル者ナリト雖モ自己ノ處分權ヲ存シテ
銀行ニ預ケタル自金ノ支拂ヲ目的トスル又
ノニシテ其支拂々其預金實ニ存スルトノ自
認ノ事由ニ基テ為替手形ニハ此事由存スル
ヲ許サス

故ニ為替負債ハ專ラ為替法上ノ規則ヲ以テ
判スヘキ嚴重ノ負債ナリ此負債ノ支拂ヲ為
サ、ルニ依リテ生スル負債者ノ責任甚タ嚴
シシテ之ヲ支拂無能力ト見做レ直ニ破産處

分ヲ為ス下ヲ得ヘシ昔時ハ各國ニ於テ為替
上ノ嚴重ヨリ生スル結果ナシテ支拂ヲ為サ
、ル負債者ヲ禁錮スルニ至リシカ今ハ多ク
ハ之ヲ廢シ專ラ其財産ヲ隱匿スル下ヲ防カ
ン為メ物留スルノ法ヲ存スルノミ且又為替
ノ負債者ハ只己レノ全財産ノミヲ以テ責任
ヲ負フ者トス獨六國ノ為替法第五條及ハ
法律千八百七十七年七月九日
及ニ千八百七十七年八月九日
英、日、佛、國、法、律、

凡ソ為替法ノ規則ハ可成的確實ニ為替ヲ支
拂ハシムルノ主旨ニ出ツヘシ何トナレハ為
替ハ金額ト同一視スヘキモノナレハナリ是

故ニ為替拂方ハ商業上ニ於テ現金ノ支拂ト
同一ニズルヲ得ヘシ

夫レ為替ハ眞ノ金銭ニ非ラス為替振出ハ他
日現金支拂ヲ為スヘキノ約束ヲ為スモ、現
ニシテ為替法ノ編制ハ為替ノ支拂ヲ可成的
確實ニ期シ得ヘキヲ基トスル者ナリ為替ヲ
以テスル支拂ハ元來信用支拂即チ信用ヲ以
テスルノ支拂ニシテ為替ハ即チ信用證券ナ
リ信用ハ第十章ノ緒言ニ從ヒ自己ノモト
ニテ使用シ其期ニ至リ償還スヘキ他人ノ金
錢ナリ為替手形ヲ與ル者ハ自己ノ金銭ヲ與
フルニ非ズシテ他人ノ金銭ヲ與フル者ナリ

即チ他人ヨリ受取人ニ支拂フヘキ金銭ナリ
又自拂為替ノ振出人ハ自己ノ金銭ヲ拂フノ
切手ヲ與フルモノニシテ他人ノ金銭ヲ拂フ
ノ切手ヲ與フルモノニ非スト雖トモ其實此
金銭ハ支拂ヲ以テ受取人ノ金銭ト為ルモノ
ナリ而テ受取人ハ支拂ヲ受クル迄ノ間其金
錢ヲ振出人ニ任放シ振出人ハ若干時間他人
ノ金銭ヲ使用スルヲ得ルモノナリ之ヲ要
スルニ為替ハ何レノ場合ヲ問ハス受取人ニ
シテ若シ現金ノ支拂ヲ受ケタラシムハ直ニ
之ヲ自己ノモノトナシ得ヘキ金銭ヲ暫ラク
他人ノ使用ニ任放スルノ効力ヲ有スルモノ

十リ

抑モ為替ノ取引ヨリ生スル信用ノ關係ハ甚
 タ種々ニシテ且往々相混雜スルモノナリト
 雖モ到底為替取引ノ信用取引タルト必然ニ
 シテ之ニ因テ金錢ヲ暫ラク他人ノ使用ニ供
 シ後ニ其支拂ヲ受クルモノナリ故ニ為替取
 引ノ實ハ即チ信用ニシテ受取人及ヒ其後ノ
 裏書讓受人ハ支拂人及ヒ振出人ニ信用ヲ與
 ルモノナリ亦々振出人ト支拂人トノ間及ヒ
 裏書讓渡人ト裏書讓受人トノ間ニ於テモ信
 用ノ關係アリ
 今一點ノ疑問ヲ存スルハ為替モ亦々借用證
 書ナリ借用證書ノ為替タルハ何ヲ以テ認ム
 ヘキヤ即チ債券ヲ以テ為替手形トシ其債ヲ
 以テ為替負債トスルニハ何ヲ以テ必要トス
 ルヤト云フニ在リ抑モ為替手形ニハ二様ノ要
 件アリ曰ク為替負債タルノ事項曰ク其事項
 ヲ法律上ノ法式ヲ以テ示ス一是ナリ其事項
 ハ法式ニ據テ了知シ得ヘキモノナレハ負債
 證書ニシテ為替法必要ナル法式ニ稱フモノ
 ハ皆為替タリ故ニ為替ハ皆十之ヲ書面ニシ
 テ法律上必要ナル條款ハ為替負債ノ法律上
 ノ性質ニ據テ自ラ生ズル者ニシテ既ニ前ニ
 概言シタル各需要ハ後チ適當ノ場所ニ於テ

書ナリ借用證書ノ為替タルハ何ヲ以テ認ム
 ヘキヤ即チ債券ヲ以テ為替手形トシ其債ヲ
 以テ為替負債トスルニハ何ヲ以テ必要トス
 ルヤト云フニ在リ抑モ為替手形ニハ二様ノ要
 件アリ曰ク為替負債タルノ事項曰ク其事項
 ヲ法律上ノ法式ヲ以テ示ス一是ナリ其事項
 ハ法式ニ據テ了知シ得ヘキモノナレハ負債
 證書ニシテ為替法必要ナル法式ニ稱フモノ
 ハ皆為替タリ故ニ為替ハ皆十之ヲ書面ニシ
 テ法律上必要ナル條款ハ為替負債ノ法律上
 ノ性質ニ據テ自ラ生ズル者ニシテ既ニ前ニ
 概言シタル各需要ハ後チ適當ノ場所ニ於テ

論スヘキナリ一般ノ原則及ニ各國(佛國英國
米國白國伊國蘭國及ニ西國等)ノ法律ニ依レ
ハ手形上ニ為替負債タルトテ證明スヘキ文
意アレハ足レリトス而シテ一定ノ語ヲ用ユ
ルハ法律上ノ必要ニ非ラス獨國ノ為替法第
四條及ニ露國瑞西國等ノ法律ニ於テハ其手
形ノ文言中ニ為替タルトテテ手スノ文語(例令
ハハ此為替手形列換ニテ拂渡スヘシ云々ヲ
記スルニアラサレハ為替手形タルヘキ効力
ヲ有セストシ苟クモ此語ナキ成ハ縱令ニ他
ノ事實上ノ條款欠クル所ナキモ此手形ヨリ
為替負債ヲ生スルトナク以テ此法式ノ不備

ハ為替法ニ依リ云々等ノ如キ他ノ文言アリ
ト雖凡之ヲ補ナフ能ハサルモト不本案ハ
此點ニ就テ各國多數ノ例ニ據リ此所謂為替
要件ノ語ヲ記スルヲ以テ法律上ノ必要ト為
サス何トナレハ法律ニ熟セサル者ハ此純然
タル法式ノ為ニ弊ヲ蒙ルノ恐アレハ十
リ

佛國高法第百十條ニ於テハ指名ヲ以テノ語
又ハ右ニ類スヘキ語ヲ記載スルヲ要ス英法
・於テハ右様ノ語ヲ記載セサルモ為替法ヲ
以テ論スト雖凡之ヲ他ニ讓渡ス能ハサル者
トセリ斯ノ如キ規則亦タ必要トセス何トナ

レハ為替ハ商業習慣ニ據テ自ラ讓渡ヲ為シ
 得ヘキモノ十レハ十リ此點ニ就テハ第三而
 九十四條及ニ第三而九十五條ニ就テ者ルハ
 シ又獨リ為替手形ノミナラス總テ指名證券
 ハ自カラ讓渡ヲ為シ得ヘキ融通證券ト雖モ
 讓渡ヲ禁スルノ旨ヲ記シテ之ヲ禁スルイテ
 得ヘシ是レ讓渡ヲ為ス為メニ裏書ニ指名ヲ
 以テノ語ヲ附記スルヲ要セス唯々讓渡人ノ
 明言ヲ以テ讓渡ヲ禁スルヲ得ヘシトノ各國
 普通ノ例規ニ依ル差圖ヲ以テ又ハ所持人ニ
 ノ語ハ商業交通上ニ於テ殆ント各國ニ用エ
 ル所ノモノ十レハ實際ニ於テハ自然ノ例文

ト見做スヲ得ヘシト雖モ必スシモ必要缺ク
 可カラサルモノトセス加之各國ノ法律ニ於
 テモ一定畫一ノ法式ヲ必要トセス本條亦々
 此主義ニ準據ス(勅而條及第勅而一條讓國商法
 獨國勅法勅六條故ニ差圖ヲ以テノ語ヲ附
 記スルハ佛法及ニ其他直接ニ該法ニ做フタ
 ル各國ノ法律ニ屬スル一種特別ノ法式ト視
 テ本條ニ之ヲ採ラス西曆千八百七十五年十
 一月五日「ブレ」ニ於テ開キタル萬國為
 替法會議ノ決議ニ於テ亦タ然リ
 是ヲ以テ本條ハ此點ニ就テ左ノ如ク解スヘ
六雜
 而誌
 二二
 十十
 九二
 年冊
 第

レ曰ク為替ハ其性質上ニ於テ自ラ融通券ニ
メ縱令ヒ「差圖」ヲ以テノ語ヲ明記セスト雖モ
差圖證券又ハ無記名式證券ノ原則ニ據テ讓
渡ヲ為スヲ得ヘシト然レモ若シ反對ノ文語
ヲ以テスレハ指名ノ性質ヲ除ク「得」ハシ
獨國ニ於テハ之ヲ名ケテ直ク「為替」ト
之フ

第七百條

商ヲ為ス「得」ル各人ハ為替義務ヲ負フ「得」

為替振出及ヒ其他為替上ニ管スル取引ハ商
業取引ニ屬スルモノナリ何トナレハ為替ハ
商業上ノ物件ニシテ信用ノ活用ニ依リ資本
ヲ運轉スルモノナリ(第四條)故ニ為替
取引ヲ為シ得ヘキ能力ハ商業取引ヲ為シ
得ヘキ能力ト同一ナラサルハカラス(第十條)
ニ從ヒ獨立シテ契約上ノ義務ヲ負擔スル「得」
ヲ得ヘキ者即チ「得」年ニシテ獨立ノ者ハ總テ
商業ヲ營ムヘキ能力ヲ有スル者トシ唯

未丁年者及有夫ノ婦ハ第十一條及第十二條ニ從ヒ高業ヲ營ムヘキノ能力ヲ得ルニ
アラサレハ然ルヲ得ス本條ハ為替上ノ義務
ノ負擔ニ就キ規則ヲ立タルモノニシテ為替
ニ據テ權利ヲ所得スルトニ關係セサルモノ
トス夫レ一方ニ於テ權利ヲ所得セント欲ス
レハ同時ニ義務ヲ負擔セサル可ラス何トナ
レハ幾分ノ義務ヲ盡スニアラサレハ為替ニ
就テノ權利ヲ執行スル能ハサルト通例ニシ
テ若シ其義務ヲ犯スハ權利モ亦自ラ消滅
スヘケレハナリ例ヘハ拒證書及ヒ償還要求
書ヲ作ルヘキト及ヒ一定ノ期限及ヒ手續ヲ

守ルヘキトノ如シ然リト雖モ純然タル無記
名式為替金ノ受取ニ於ル如キハ同時ニ義務
ヲ負擔スルトナキモノナレハ其為替上ノ權
利ヲ執行スルハ獨立ニアラサル者ニ之ヲ禁
スルノ理由ナシ何トナレハ此ノ場合ニ於テ
ハ專ラ金額取立ノ一點ニ關スレハナリ
此點ニ就テハ各國法律同一ナラス佛國商法
第而十三條及ヒ第而十四條ニ於テハ未丁年
者ノ為替署名ヲ無効トシ且有夫ノ婦ハ勿論
丁年ナル無夫ノ婦ノ署名ハ少ナクモ為替法
上ニハ無効トシ唯モ民法上ニ於ケル通常ノ
義務ト看做ス然レハ右兩場合トモ該人等商

業ヲ營マサル時ニ限ルモノトセリ
獨國為替法第一條ニ從ヘハ為替振出ノ能力
ハ全ク民法ニ據テ判定スヘキモノトセリ故
ニ未丁年者ト雖其父又ハ後見人ノ連署或
ハ同意ヲ得タルハ有効ノ為替義務ヲ負擔
シ得ヘキモノトシ又婦ニシテ其夫ノ同意又
ハ連署ヲ得タル時モ然リトス而シテ其同意
ハ必スシモ為替上ニ明掲スルヲ須ヒス默認
ヲ以テスルモ妨ナシ例ヘハ其子ノ振出シタ
ル為替ニ列後ヲ為シ又ハ其婦ニ宛テ振出シ
タル為替ノ支拂ヲ為スカ如キ是ナリ
英法ニ於テモ為替上ノ能力ハ普通ノ原則ニ

據テ判定スヘキモノトシ未丁年者ハ假令ヒ
タルヘカラサル需用アルモ為替上ノ義務ヲ
負フコト能ハス然リト雖其父丁年者トナリタル
後其為替ノ署名ヲ承認スルコトヲ得ヘク有夫
ノ婦ハ獨立ノ高業ヲ營ムコト能ハサルハ其
夫ノ同意ヲ經サレハ總テ為替上ノ義務ヲ負
フコトヲ得

本案ハ為替取引ヲ以テ高業ヲ營ムコト同一
視スルニ基ク故ニ此取引ヲ為スニハ一般ニ
辱ルト高業上ノ為メニスルトヲ問ハス其獨
立ナルコトヲ必要トシ獨立ナラサル者ハ縱令
ニ後見人等ノ同意ヲ經ルト雖其為替法上ノ

義務ヲ負フ能ハス何トナレハ高業上ノ能
カハ右様ノ同意ヲ以テ得ハギモ、非サレ
ハナリ然レ氏其無効ナルハ唯タ為替上ノ
義務ニ係リ敢テ民法ヲ以テ判定スハキ一般
ノ義務ニ関セサルナリ民法ニ依レハ後見人
ニシテ法律ニ適スルノ同意ヲ成ハタルハ
未丁年者ト雖氏其責任ヲ負ハサルヲ得ス若
シ否サルハ未丁者ニ於テ其取引ニ依リ不
正ノ利益ヲ占メタルハ限リ其責任アリ是
レ佛國商法第百十四條ニ於テ民法第千三百
十二條ノ規則ヲ援引シテ是認シタル所ノモ
ノナリ

第七百一條

為替證券ニ為替無能力者ノ署名アルモ其他ノ
署名ノ効力ハ此カ為メニ妨ケラレ、一無シ

此規則ハ獨國為替法第三條及ヒ佛國商法第
百十三條及ヒ第百十四條ニモ掲クル所ニシ
テ是レ為替法ノ原則ヲ表スルモナリ此原
則ヤ尚第七百五條等ニ於テモ其効驗ヲ發ス
即チ為替ハ一定法式ノ契約ニシテ獨リ契約
者雙方ノ意ヲ以テシ第百二十七條ニ從ヒ
證書ヲ以テスルモ未タ其効力ヲ有セズ必ス
ヤ為替法ニ於テ特別ニ定ケル所ノ法式ニ依
ラサル可カラズ(第百條)然レ氏此法式ハ實際

必要ナルモノ、外、及ホス可カラサルナ
リ通例為替ニハ數人ノ姓名ヲ署名シ其署名
ニ依リテ義務ヲ負フヘキ能力者ノ署名アレ
ハ充分ノ効力アリ此効力ハ無能力者ノ署名
ノ為メニ喪失スルモノニ非ラズ故ニ一人ノ
為替義務ハ他人ノ義務ノ効力如何ニ關スル
トナク各義務ハ皆以テ獨立ノモノト見做ス
可シ例ヘハ未丁年者為替ヲ振出シタルニ支
拂人其引受ヲ為シタルニハ支拂人直ニ其為
替ノ責ニ任シ未丁年者ハ其引受又ハ支拂ヲ
為ス者ナキモ其責ヲ負擔スルヲ須ヒス
其他此點ニ就テハ公法上ノ故障ト民法上ノ

不能カトヲ區別セサル可カラズ例ヘハ官或
ハ商業ヲ營ムヘカラスト雖モ若シ之ヲ營ミ
以テ為替ニ署名シタルニハ其署名充分効力
ルモノトス
瘋癲人、公認ノ浪費者及ヒ倒産人ノ如キ元來
義務ヲ負フ可カラサル者ノ署名無効ナルハ
一般ノ原則ニ據ラ自カラ明ナリ何トナレハ
契約ノ能力ニ關スル一般ノ規則ハ為替ニモ
適用スヘキモノナレハナリ盲人ノ為替能力
ニ就テハ疑問ナキ能ハス然レモ他人ノ補助
即チ公證人ノ與書ヲ經テ署名シタルニハ無
効トス可カラズ聾啞亦之ニ同シ

第七而二條

證券ニシテ為替證券ノ要件ヲ外觀ノ為メニ

ニ記入シタルモノハ其情ヲ知リタル者ノ為メ

ニハ之ヲ為替證券ト看做サス

本條亦為替法ヲ一貫スル所ノ法式上ノ原則

ニ出ルモノニシテ抑モ為替ハ法律上ノ要件

ヲ備エサレハ其効ナシ而シテ其要件唯タ真

個ノ為替タル外觀ヲ與ヘン為メニ為替ニ記

載シ其實ノ存セサルニ於テハ其為替々其實

ヲ知リタル者ニ對シテハ為替タル効ナク唯

タ之ヲ通例ノ契約書ト見做ス可シ然リト雖

凡其實ヲ知ラサル者ハ其外觀ニ止マルノ為

替タルトテ外部ヨリ認知スルヲ得ス其記レ
タル文面ヲ標準トスルノミ依テ此者ニ對レ
テハ其為替知カアルモトス例ハ現在セ
サル人ニ宛テ為替ヲ振出し又假令其人存ス
ルモ實意ニ出テス唯々支拂人ノ名ヲ為替ニ
据ヘントトノ外觀ノ為メニ其受取人其情ヲ
知りタルハ為替ノ引受ヲ得ル能ハス又振
出人ニ對シテ償還要求ヲ為スヲ得ス以テ此
受取人ト振出人ニ對シテハ其證書為替ニ非
ラスニテ借用證書タルニ過キサルノミ然レ
ル若シ受取人其證書ヲ他人ニ讓渡シ其人支
拂人ノ假設タルトヲ知ラサルハ其證書ハ

其人ニ對シ眞ノ為替ト為ルカ故ニ裏書讓渡
人及振出人ニ對シ自己ノ權利ヲ執行スルト
テ得ヘシ而シテ其裏書讓受人ヨリ復々他人
ニ裏書讓渡ヲ為スキモ亦々同シ何トナレハ
右等ノ人ハ只為替上ノ外觀ニ付テ其為替ノ
効カラ判定スルヲ得レハナリ是即チ一般ノ
是認ヲ經タル所ニシテ(蘭國高法第百二條)佛
國高法第百十三條(ブラワール、三第百十五條)
亦此意ヲ以テ解ス可キナリ(スミス、ノルカン
トロ、第二而十一葉)

第七而三條

他人ヨリ特ニ委任ヲ受クルヲ無ク又ハ代理ノ
事實ヲ明記スルヲ無クシテ他人ノ為メニ為替
證券ニ署名スル者ハ此ニ因リテ自己ニ責任ヲ
負フ

本條ノ規則モ亦嚴重ナル為替法式上ノ性質
ニ基ツク為替ハ他人ノ委任及ニ名義ヲ以テ
代人ニ署名スルヲ得ヘシ抑モ委任人ハ
縱令ニ其代人ノ關係ヲ別段明示セサルモ其
代人ノ所為ニ出ル權利及ニ義務ヲ直接ニ專
有ス(第三三而四十一條)代理ノ効力ノ主要即チ
委任人ニ對スル直接ノ効力ハ為替法ニ於テ

モ亦之レアリ然レ其為替代理ノ關係ハ默
認ヲ以テレ即チ為替外事由ヲ以テ効力ヲ施
ス1ヲ得ス夫レ為替ハ只其文面ヲ以テ判ス
ヘキモノニシテ代人タル1ヲ明記セズシテ
他人ノ為メニ為替ニ署名シタル者ハ自ラ其
責任ヲ負ハサルヘカラス委託ヲ受スレテ他
人ノ為メニ為替ニ署名シタル者ハ縱令ニ其
代人タル1ヲ為替ニ明記スルモ亦タ同レク
其責任ヲ負ハサルヲ得ス何トナレハ唯タ外
觀ニ止マリ其實ニ非サル委託ハ他人ニ其義
務ヲ負ハシムルヲ得サレハナリ（獨九國十為替法
セブ第十四條）又代人ニシテ自己ノ姓名ヲ署

セス委託者ノ姓名ヲ署シタル成ハ若シ實ニ
委託アリタルキニ限り委託者其責ニ任ス若
シ然ラサルキハ之ヲ偽署名ト視ル
佛國商法第而十一條ニ於テハ尚ホ他人ノ計
算ヲ以テ自己ノ名義ニテ為替ヲ振出ス1ヲ
得ヘキモトス此レ所謂仲買為替ニシテ仲
買人若クハ銀行カ仲買人ナル場合ニ於テ之
ヲ振出し得ヘキ1勿論ニシテ特ニ明掲スル
ヲ要セス此ノ如キ為替ハ總テ姓名ヲ署シタ
ル者ヲシテ直接ニ其義務ヲ負ハシケル者ナ
レハ通常ノ為替ト一モ異ナル1ナレ其効驗
ハ唯タ其為替ニ依リテ支拂フタル金額ヲ該

他人ト差引スルニ在ルノ例ハ甲若シ丙ノ計算ヲ以テ自己ノ名義ニテ乙ニ宛テ為替ヲ振出し而シテ其丙ハ元来甲ノ負債者ニシテ乙ノ債主ナリ於是乙其為替ヲ支拂フタル中ハ乙ハ其負債ヲ丙ニ償ヒ丙ハ其負債ヲ甲ニ償フヘキモノトシテ計算ヲ立サル可カラサルカ如シ今斯ノ如ク為替ノ原因タル計算上ノ關係ハ為替ノ法式上ノ關係ヲ以テ變スルナリ故ニ獨國為替法ニ於テハ仲買為替ニ付テ別段規則ヲ設ケス佛法ニ於テ此為替ニ就キ定規ヲ設ケタル所以ノモノハ為替ノ金額ニ對シテ之ニ等シキ代價ヲ以テ為替ノ

必要ト為シタルニ依ル然レモ他人ノ計算ヲ以テ其額ヲ記シ得ルハ既ニ此要件ノ存スルモノト見做スヲ得ヘキモノニシテ是レ假令ニ明掲セサルモ為替法ノ主義ニ於テ疑ヲ容レサル所ナリ

第七百四條

為替證券ノ受取人ハ直クニ振出人ニ對シ又其
後ノ各所持人ハ其前者ヲ經由シテ振出人ニ對
シ番號ヲ記シタル同文ノ證券數通ノ交付ヲ求
ムルヲ得

為替證券ノ各所持人ハ需用ニ應ジテ自ラ為替
證券ノ謄本ヲ作ルヲ得

凡ソ契約書ハ通常一通トシ又數通ヲ作ルニ
其契約者ノ員數ニ應ジ契約者各其一通ヲ受
領ス為替ニ在リテハ受取人又ハ其後ノ各所
持人ハ數通ヲ製シ一時ニ之ヲ受取り需用ニ
從ヒ數通ノ中何レヲ使用スルモ妨ケナシ是

レ一ニハ一通紛失ノ時ニ供セシ為ノ一ニハ
同時ニ種々ノ目的ニ供スルヲ得ニ為ノ用
アリ（第六條）以高法第六條而五付時、獨三國第八條、十法九第、第六十
例ハハ一通ハ為替ノ引受ヲ得ニカ為ノ一ニ之
ヲ送付シ其間他ノ一通ヲ以テ他人ニ其為替
ノ賣渡ヲ為ス下ヲ得ルカ如シ斯ク為替ノ數
通ヲ使用スルノ原則ハ後々説明スル所アル
ヘシ此ニ注目スヘキハ為替ノ數通ヲ總テ一
通ト見做シ其支拂ハ一回ニ限ル是ナリ然リ
ト雖凡為替ノ法式的ナル性質ニ基ツキ格別
ノ場合ニ於テハ數通皆テ獨立ノ為替ト為ル
トアリ是レ下ニ記スル所ヲ以テ知ルヘシ

本條ハ數通ノ為替皆同一文ニシテ且第一第
二第三等ノ番號ヲ記スヘキヲ定ム蓋シ通例
ハ尚ホ為替ノ一通ニ就テノニ支拂ヲ為スヘ
キ下ヲ掲クト雖凡是レ勿論ノ下ナレハ別段
明記スルヲ要セス又受取人ハ直々ニ振出人
ニ對シ為替數通ヲ請求スルヲ得ヘク其後ノ
讓受人ハ前所持人ノ媒介ヲ受ケ又其所持人
ハ其前ノ所持人ニ賴リ次第ニ其請求ヲ傳ヘ
テ終ニ振出人ニ及フヘシ（獨六條）若シ其
手形ニ乙ニ裏書アル他ノ各通ニモ其記載
アラントテ請求レ得ヘキハ勿論タリ其請求
ニ就テハ期限ヲ立テ又ハ理由ヲ示スカ如キ

制限ナシ唯其必要トスル所ハ番號ヲ記スル
ノニ是レ為替ヲ請取リタル者ハ其番號ニ據
テ他ニ同一ノ為替アルトテ知リ詐偽ノ難ヲ
免アル、ヲ得セシメン為メナリ若シ此番號
ナキニ於テハ其為替ノ數通アルトテ知ス
ルノ道ナシ故ニ其一通毎ニ獨立ノ為替ト見
做スニ至ルヘシ
第二第三號ノ手形ハ獨リ振出人之ヲ作ル
ヲ得ヘシト雖トモ謄寫書ニ至テハ其為替所
持人ニ於テ之ヲ作ルヲ得故ニ第二號云々ノ
手形ニ関スル規則ハ謄寫書ニ適用スルヲ得
ス而シテ謄寫書ハ真正ノ署名ナキカ故ニ一

モ効力ヲ有セス是ヲ以テ真正ノ為替トシテ
之ヲ使用スルヲ得ルハ特別ノ關係アルニ
限ル然レモ其謄寫書中ニ記シタル真正ノ署
名ハ其効力アリ(獨及國為替法第七十條)
為替ニ書スルヘキノ餘白ナキニ付箋ヲ為
ストテ得ヘシ斯ノ如キ為替附箋ハ第二號等
ノ手形ニ非ラス又謄寫書ニ非ラス只其為替
ノ一部分即チ其連續タリ此點ニ就テ説明ス
ヘキハ唯々其附箋ノ分離シタル場合ニ於テ
為替トノ連續ヲ明知シ得ヘキ方法ヲ施スヘ
シトテフニ過キス法國ノ為替法第四十六條
ノ規則ニテハ附箋ニハ為替ノ文言ヲ謄寫シ

捺印ヲ以テ之ヲ為替ト結合スヘキモノトス
然レモ斯ノ如ク容易ニ混錯ヲ生スヘキ規則
ヲ設ケニヨリ寧ロ之ヲ其關係者ノ注意ニ任
スルヲ至當トスヘシ

第七而五條

為替證券ハ其旨趣ニ因リテ直接ニ義務ヲ負ハ
シム但法律又ハ商慣習ニ依リテ例外ト為ス可
キモノハ此限ニ在ラス

本條ハ為替ノ法式的ナル性質ヲ一般ノ原則
トシテ定ムルモノナリ此原則ハ兩義ニ分ル
第一ニハ為替手形ノ文面ハ其儘効力アリ即
チ之ニ記載シタル文面ノ何タルヤヲ以テ專
ラ其効力ヲ論シ契約者雙方ノ目的他ニ存ス
ルモ之ヲ問フナク第二ニハ實ノ權利起由
ヲ要スルナク為替ノ文面直接ニ効力アル
是レナリ是故ニ署名ハ其署名ノ石ニ在ル記

載：効カヲ與フルモ、シテ其記載カ縱令
白地裏書ノ為替等ニ於ルカ如ク其文語敢
テ署名者ノ手ニ出テサレモ亦タ然リ何トナ
レハ其署名ニシテ眞ナル成ハ縱令ニ他人ニ
於テ何ナル事項ヲ書加ユルト雖モ署名者其
責任ヲ負ハサル可ラサレハナリ其結果ヤ塗
抹シタル文言ハ其事ノ故意又ハ不意ニ出タ
ルニ拘ラス法律上効カナキニ至ル何トナレ
ハ塗抹シタルモノハ文面中ニ屬セサレハナ
リ加之其塗抹ニシテ法律上ノ要件ノ一ヲ欠
クニ至リテハ其為替全体カ効カヲ失ナラズ
ノトス

此原則ハ尚ホ以下諸條ニ於テ適用說明スル
所アルヘシ而シテ之ニ就テ例外アルハ法律
上ニ許ス所ノ者ニ限ル然レモ法律上ノ規定
ナクシテ商業習慣上ニ於テ許ス所ノ例外モ
亦之ニ算ス其商業習慣上ニ許ス所ノ例外ハ
從來習用慣行シタル法律ノ適用解釋ニ俾ル
者ヲ主トス然レモ此ニハ商業習慣ノ効カヲ
嚴ニ制限スヘシ何トナレハ為替法ハ嚴重ナ
ル法式的ノ義ヲ備フル者ナレハ為替法上
規則ハ尋常ノ解釋ヨリモ一層嚴ニ解釋セサ
ル可ラサレハナリ
為替文面ノ直接ノ効カニ俾ル例外ハ重ニ為

替新訟ニ對スル故障申立ニ關スルモトス
是レ以下諸條ニ記スル所ノモトニ就テ見ル
ヘシ且此ノ例外ノ一二ハ已ニ第七而條及ニ
第七而一條ニ於テ之レヲ設ケリ例ハ未丁
年者ノ署名シタル手形ハ其未丁年者ニ取テ
ハ義務ノナキモノトス何トナレハ未丁年者
ハ高掌ヲ營ムヘキ能力ヲ有セサレハナリ又
手形文面ノ外觀ニ止マルトナリ知スル者ニ
對シテハ其為替効ナキモノトス

第七而六條

法律上ノ要件ヲ掲ケサル為替證券又ハ其要件
ト共ニ違法ノ事項ヲ掲ケタル為替證券又ハ旨
趣カ互ニ牴觸シ其牴觸ヲ法律ノ許セル方法ヲ
以テ取消トナリ得タル為替證券ハ無効ナリ
凡ソ為替手形ヲシテ前條ニ掲ケル所ノ効力
ヲ有セシモノニハ第一ニ法律ニ記載スル所
ノ要件即チ法律ニ記載スル所ノ文面及ニ法
式ヲ備ヘサル可ラス法律トハ為替手形ニ關
スル法律ニ限ル何トナレハ為替ハ自家特別
ノ法律ヲ有シ契約取結ニ關スル一般ノ原則
ハ此ニ適用スヘキモノニ非ス又假令ニ之ヲ

適用スルモ為替法ニ許ス所ヲ以テ限トスレ
ハナリ此要件ハ第七百九條及ニ其他ノ條ニ
於テ詳定スル所アルヘシ例ヘハ為替ニ振
出人及ニ支拂人ノ姓名ヲ記シ、レハ為替ニ
非ス又為替ノ金高ハ文辭以テ記スヘキノ規
則アルニ若シ數字ノニテ之ヲ記シタルニ
ハ亦タ有効ノ為替ニ非ス其他為替ニハ振出
人ノ姓名ヲ其手形ノ末尾ニ署スヘキニ十
ニ若シ其姓名ヲ手形ノ肩頭或ハ中間ニ記
シタルニ亦タ手形ノ効ナキ者ナリ總テ右
ノ如キ場合ニ於テハ單一ニ法律ニ準據スル
ヲ以テ足レリトスルアリ又補充的ニ法律ノ

解釋或ハ商業習慣ニ依ルヘキナリ例ヘハ
姓名ハ筆記又ハ印刷ニ得ヘキヤノナリ又或ハ
誤字アルハ其署名ノ効アルヤ否ヤノナリ等是
ナリ其誤字アル場合ニ於テハ其姓名ノ讀ミ
得ヘクシテ本人ヲ確知スルニ足ルニハ縱令
ニ其姓名ヲ一字毎ニ明白ニ記載セテモ其
署名ノ効アルモトスヘシ
第二ニハ為替ニ總テ法律上ノ要件ヲ備フル
ニ他ニ法律ニ戾ルナリ記シタルニハ其手形
無効トス是レ附記ヲ以テ其手形上ノ義務ヲ
不確定トナシ或ハ再ニ之ヲ取消スノ時乃チ
是カ為メニ其義務ノ効力ヲ失スルノ場合ニ

於テ生ズルモノナリ為替手形ノ義務ハ其金額ヲ慥ニ拂フヘキニ在リ然ルニ商品又ハ公債證書等ニテ拂フヘキナリ記シタルモノ之カ為メニ金錢ノ支拂不確定トナル何トナレハ負債者ハ乙レノ隨意ニ任カセ商品等以テ拂フナリ得ヘケレハナリ又未必條件差引勘定又ハ報酬等ヲ以テ支拂ノ関スル所トナシタルモノハ慥カニ拂渡ヲ為スヘキノ義務ヲ消滅セシムルニ至ルヘシ其他手形ノ金額ハ必ス受取人ニ拂渡サハル可カラズ是故ニ會社ノ社員又ハ夫婦ノ如キ法律上ニテ一個人ト認定シ得ヘカラサル所ノ數名ノ受取人ヲ記

載シタルモノハ其金額ノ拂渡ヲ受クヘキ人ニ確定トナリ其為替無効ニ歸ス何トナレハ為替法ハ連帶義務ヲ知ラサレハナリ
 第三ニハ為替文面互ニ牴觸スルモノハ其為替無効トナルナリ例ハ東京及ニ其他ノ各地ニ於テ支拂ヲ為スヘキナリ其手形ニ記載シタルカ如キ是ナリ此場合ニ於テハ特リ東京而已ナラズ總テ他ノ地ヲ以テ支拂地トナシタルモノニシテ之ヲ一定スルノ道ナレ又支拂ノ期日振出ノ日附ニ先立ナレハ縱令ニ過誤ノ為ニ此ノ如キ牴觸ヲ生セシト雖モ其為替無効トス場合ニ依テハ法律ノ許ス

所ヲ限トシ解釋又ハ修正ヲ以テ抵解ヲ除ク
トヲ得ヘシ例ハ為替金額ヲ重記シテ相異
ナル時是ナリ法獨鞆鞆其修正(改竄)ノ要點
係ラサルモハ之ヲ許シ其要點ニ係ルモノ
：就テハ其修正ノ方ニ依リ振出人ノ署名全
文面ニ對スルマ、疑惑ヲ生シ又ハ要點ヲ不
明了ニナシタルニ為替ヲ無効トナスニ至ル
ト一般ノ原則トスル所ナリ法獨鞆鞆是
レ主トシテ裁判官ノ判決及ニ商掌習慣ニ任
スヘキナリ

第七而七條

為替證券上ノ重要ナラサル附記ハ法律上ノ要
件ニ適スル為替證券ノ旨趣ノ効力ヲ妨クル
無ク又為替上ノ義務ヲ生セシムルヲ無シ
有効ナル為替手形ニ重要ナラサル事件即チ
文面ノ要點ヲ動カスニ至ラズ又ハ其手形全
体ノ有効無効ニ差響ヲ生セサル事柄ヲ附記
スルトアリ之ヲ復言セハ其手形ノ大体ノ要
旨ヲ減却シ又ハ之ヲ不明瞭ナラシムルニ至
ラサルトヲ附記シタルニ前條ト異ニシテ
為替義務外ニ於テスル附帶約束ニ係ル例ハ
ハ利息支拂法獨鞆鞆七為替印紙稅則違背ノ罰金辨

償時効ノ放棄及ニ抵當物ヲ入レ置ク等是レ
ナリ其他為替義務ニ関スルトシテ法律上
無効トスヘキ事ノ附記亦タ此ニ屬ス例ヘハ
為替手形ノ振出人義務ナシ等ノ附記ノ如キ
是ナリ何トナレハ振出人ハ法律上償還義務
ヲ棄却スルトテ得サレハナリ
右ノ如キ不要ノ附記ハ抑モ記載セサルモノ
ト同シク為替法ニ於テハ其効ナキモノトス
ルカ故ニ之ヲ以テ為替文面上ニ効カアルモ
ノトスル能ハス而シテ為替外ニ於テ其事件
ノ効カアルト否トハ民法ニ據テ判定スヘキ
モノナリ

第七而八條

偽造又ハ變造ノ為替證券ハ為替證券トシテ其
効ヲ有ス然レモ偽造變造ニ因リテ義務ヲ生ス
ルト無シ但一旦生シタル義務ハ變更セサルモ
ノトス
偽造變造ニ付テハ異議ハ其偽造變造ヲ為シタ
ル者又ハ其情ヲ知リテ為替證券ヲ取得シタル
者ニ對シテ之ヲ起スルヲ得

署名ノ其實ニ非サル為替ハ偽造ノ為替ナリ
此外金額支拂地及ニ満期日又ハ振出ノ日附
及ニ人名ノ如キヲ恣意ヲ以テ變易シタル為
替ハ變造ノ為替トス

偽名ノ為替ニ就テハ其名ヲ濫用セラレタル者責任ヲ受ケサルト勿論ナルヘシ何トナレハ其署名實ニ己レノ手ニ出テサレハナリ其偽名ニタル者モ其責ヲ負ハス何トナレハ該人ハ刑ニ處セラルヘキ處置アルカ為メニ民法上ニ於テハ其責任ナキ能ハスト雖モ其為替ニハ己レノ姓名ヲ記サ、ルカ故ナリ然レモ為替ニ一偽名アルハ第七百一條ニモ論ニタル如ク真ノ署名ヲ無効トナスニ非ス此真ノ署名ニ依テ其權利及ヒ義務ヲ有スル者ニ對シテハ全文面ニ隨ヒ為替ノ効カアル者トス何トナレハ為替ノ信偽ハ其文面ニ依

リテ判ズルヲ能ハサレハナリ例ヘハ振出人ノ名ヲ偽リタル為替ニ對シ支拂人引受ヲ為シタルノ時又ハ受取人カ裏書讓渡ヲ為シタル時ハ其引受及ヒ裏書ハ真正ニシテ効カアルモノトス而シテ其引受人及ヒ裏書人ハ惡意ナキ所持人ニ其金額ヲ拂フヘキノ義務アリ又真正ノ為替ニ偽名ノ裏書ヲ為シタル時ハ他ノ真正ナル文面ハ之カ為メニ無効トナルニ非ス獨條第七十條第六條此原則ハ為替ノ法式的ナル性質ヨリ自然ニ生スルモノニシテ為替ハ融通ノ為メニスル債券ナレハ其外面ノ文面ニ付テ判定ヲ為スヘキ者ナレハ

ナリ

又署名ノ外ニ俾ルノ為習文面ヲ變造シタル
 時ニ右ニ同シ例ハ詐偽ノ方法ヲ以テ為習
 ノ金額ヲ増加シ而シテ支拂人之リ引受タル
 時ノ如キ是ナリ其引受人ハ引受タル金額ヨ
 リ少キ金額ノ支拂ヲ振出人ヨリ委任セラレ
 タルカ為メニ振出人ニ對シテ其金額ノ辨償
 ヲ要求スルヲ能ハスト雖此其引受ニ由リテ
 金額支拂ノ義務ヲ負擔スヘキモノナリ又為
 習讓受人ニ對シテモ真正ノ署名ニ依リテ為
 シタル引受ハ其効力アリ且縱令ニ後末ニ至
 リ其詐偽タルトテ發見セシト雖此其真正ノ

引受ハ効アルモノナレハ其欺ムカレタル引
 受人其損失ヲ負擔セサルヘカラス
 然レ此此原則ニハ二種ノ制限アリ第一既
 為替ヨリ生シタル義務ハ偽造若クハ變造ノ
 為メニ加重若クハ變更セサルモノトス若シ
 然ラサルモ其ハ後末ノ不正ナル所持人又ハ其
 他詐偽者ノ為メニ巨大ノ禍害ヲ受クヘレ故
 ニ例ハハ而圓ノ手形ニ引受ヲ為シ而シテ其
 後ニ至リニ而圓ニ變造スル者アリト雖此其
 引受人ハ而圓ニ對スルノ責任アルノニ何ト
 ナレハ引受人ハ乙レノ引受ニ據テ成立タル
 義務ヲ其後ノ詐偽ノ為メニ加重スルノ不利

ヲ蒙ル理由ナケレハナリ又振出人及ヒ其
他詐偽アル以前ノ所持人ハ最初ノ金額ニ就
テノ責任ヲ負フヘキ者トス然レモ若シ其
偽造若クハ變造アルトテ知ラズシテ之ヲ所
得シ他ニ裏書讓渡ヲ爲シタル者ハ縱令ニ後
ニ至リ其詐偽ヲ發見シタルト雖モ其真正ノ
裏書讓渡ナルニ由リテ其爲替ノ金額ニ就テ
義務アルモトス是故ニ爲替ヲ受取ル者ハ
其手形ノ署名及ヒ金額ヲ細密ニ調査セサル
可ラス然ラサレハ詐偽ノ爲メニ損害ヲ蒙ル
ルニ至ル是レ可及的詐偽ヲ防カン爲メニ只
管爲替ノ法式ヲ嚴酷ニ定ムルノ必要アル所

以ナリ
然レモ詐偽ヲ爲シタル者及ヒ其他之ニ連累
シタル者ハ詐偽ヲ以テ利益ヲ占ムルニ能ハ
ス是レ乃チ法律ニ戾ルノ所爲ニ由テ權利ヲ
得ル能ハストノ普通原則ヨリ自カラ生スル
モノナリ前記ノ例ニ於テ詐偽ヲ受ケタル引
受人ハ惡意ナキ所持人ニ對シテ支拂ノ義務
アリト雖モ其詐偽ヲ爲シタル者又ハ其詐偽
タルヲ知リテ利益ヲ占メント欲スル者ニ對
シテハ然ラズ而シテ詐偽ニ對スル故障ハ何
レノ場合ヲ問ハズ其偽造者等ニ對シテ之ヲ
申立ルヲ得ヘシト雖モ惡意ナキ所持人ニ對

シテハ詐偽ノ為メ、義務ノ變更ヲ受ケタル
者ニ非ラサレハ申立ルヲ得ス商法雜則第一葉
各國ノ法律ニ於テハ獨國為替法第七十五條
第七十六條及ニ法國為替法第八十五條第
而八十六條ヲ除クノ外此ノ點ニ就キ別段規
則ヲ設ケタルモノナシ然リト雖氏偽造ノ為
替ハ必スシテ列受人ノ支拂義務ヲ免スルニ
非ス詐偽ハ以テ列受人ノ責ニ及フトハ一般
ノ原則ナリ百五十七葉トオリテ、英商及北
亞米利加ノ商法第四十條及ニ第五十五
葉詐偽ノ為メニ故障ヲ述ルヲ得ルハ只是カ為

メニ損失ヲ受クル者ノミニ限ラズ其手形ノ
授テラ受ケタル者モ亦然リトス例ハ詐偽
ノ裏書ヲ為シタル為替ノ持方ヲ列受人ニ請
求スルニ列受人其詐偽ヲ發見シタルニハ
其持方ヲ拒ムヲ得ヘシ但シ其授テ人ノ正否
ニ就テハ列受人ニ俾リテモ第四十條ニ從フ
ヘシ
署名ノ信偽ヲ問合セシニ誤リテ其偽署名ヲ
眞署名ト答ヘタル者畢シテ其義務ヲ負フヘ
キヤ否ハ是レ別問題ニシテ例ハ為替ノ所
持人ヨリ列受人ニ向ヒ其列受ノ眞正ナルヤ
ヲ問合セシニハ其實ハ眞正ナラサルニ列受

人之ヲ真正ナリト答タル時ノ如キ是ナリ此
場合ニ於テハ其問合人ニ對シテハ責任ナキ
能ハストセサルヲ得ス然レ其宥恕スヘキ
過誤ニ出ラタル所之ヲ取消スナラ得ヘキヤ
ハ其時ノ情狀ニ依リテ判スヘキナリ
而二冊五葉三

第七而九條

為替義務ハ其負擔ニ関シテハ為替證券ニ記載
シタル地ノ法律ニ從ヒ若シ其地ヲ記載セサル
所ハ債務者ノ住所ノ法律ニ從ヒテ之ヲ定メ又
其履行ニ関シテハ履行ヲ為ス可キ地ノ法律ニ
從ヒテ之ヲ定ム

為替上ノ權利ヲ行使シ及ヒ保全スル為メニ
ル行為ハ其行為ノ地ノ法律ニ從ヒテ之ヲ為ス
ナラ要ス但為替證券ニ其他ノ地ヲ記載シタル
所ハ此限ニ在ラズ

為替ハ融通ノ為メニスルモノニシテ通例地
ヲ隔テ、支拂ヲ為スヲ目的トスルカ故ニ為

督ニ關係アル者唯々一國內ニ於テ地ヲ異ニ
 スルニ止マラス其國ヲ異ニシ以テ其為督上
 ニ於テ引受クル種々ノ義務(振出、承諾、裏書等)
 各相分レルト少シトセズ例ハ東京ヨリ
 倫敦ニ向ケ為督手形ヲ振出し倫敦ニ於テ其
 引受ヲ為シタルノ後再ニ巴里ニ於テ裏書讓
 渡ヲ為シ再ニ倫敦ニ於テ其支拂ヲ拒ニタル
 コ以テ其償還ヲ求メシカ為ソニ之ヲ東京ニ
 送還スルカ如キ是ナリ蓋シ此ノ如キ場合ハ
 (其轉變尚此例ヨリ甚キナリ)實際ニ於テ頻
 カ生ズルモノナレハ之ニ就テ明確ノ規則ヲ
 設クルヲ必要トス此規則ハ為督ノ法式的ナ

ル性質ニ適合スル原則ニ據ラサルヲ得ス乃
 ナ為督義務ハ其為督ノ文面ニ據テ判定セサ
 ル可カラズ其他甲ノ義務ト乙ノ義務トハ効
 カラ共ニセサルモノナレハ甲乙文々相關ス
 ルトナレ是ヲ以テ為督義務ハ總テ其地ノ關
 係ニ就テモ別箇獨立ニ論スヘキモノニシテ
 各其地ノ法律ニ從ヒ此法律ハ縱令ニ為督カ
 其地ヨリ他ニ移ルト雖モ仍其効カヲ存スル
 ハ自然ノ勢ナリ例ハ佛國ニ於テハ為督ノ
 語ヲ明記スルヲ須ヒスト雖モ獨國ニ於テハ
 必ス其明記アルヲ要ス今佛國ノ為督ヲ獨國
 ニ於テ拂フハキハハ獨國ニ於ケル負債者

ハ右ノ語ヲ記セサルヲ口實トシテ其為替ヲ
無効ト申立ルヲアルヘシ然レモ是レ許ス所
ニアラズ何トナレハ其為替ハ佛國ニ於テ振
出シタルカ故ニ佛國ノ法律ニ從フヘケレハ
ナリ若夫獨國ニ於テ引受ヲ為シタルカ為ノ
ニ生スル引受人ノ義務ハ獨リ獨國ノ法律ニ
從テ判スヘキナリ
本條ハ契約ノ効力ヲ判スルニ其取結ニタル
地ノ法律ヲ以テスル一般ノ原則ヲ為替上ニ
及ホシタル者ニ總テ為替義務ハ署名ヲ以
テ其義務ヲ生シタル地ノ法律ニ據ルヘキナ
リ為替上ニ於テハ此原則通例ノ契約ニ於ル

ヨリモ一層其嚴ヲ加ヘ且其區域ヲ大ニセサ
ル可ラス何トナレハ為替ハ外觀ニ止マルノ
文面ニ係リ第七而二條ヲ適用ス可キ時ニ非
レハ總テ外面ニ見ハル所ノ文面ニ據テ判
定ス可キ者ナレハナリ
及九條以下ニ為替第二而二條此例則タル只為替
契約上ノ性質即定常ノ要件ニ係ル而乙ナ
ラス其為替ノ要件及ヒ効力即チ振出人其他
ノ為替能力其負擔シタル義務ヲ履行スヘキ
ノ義務ニ及フモノナリ而シテ各地ノ學術
或ハ商業習慣ニ基ク解釋亦チ其地ノ法律中
ニ屬スルモノナリ

履行トハ履行ス可キ義務ヲ云フニ非ラス(此
義務ハ右ニ示シタル義務中ニ算ス)物件期日
場所及ニ其他總テ実・負債者ノ義務ヲ了ル
ヘキ有効ノ履行ニ俾ルモノヲ指ス例ヘハ履
行スヘキ場所ニ於テ支拂期日ノ祭日ニ當ル
日ハ其翌日ニ之ヲ履行セサル可カラス又日
本ニ於テ拂フヘキ為替ニ弗ニテ拂フヘキ
ヲ記シタル日ハ「⁷」又ハ日本銀貨ニ
テ之ヲ拂ハサル可カラサル⁷等是ナリ斯ノ
如キモノハ時ノ相場ニテ支拂ヲ為スヘキ時
ニ殊ニ是ヲ緊要トス何トナレハ其拂フヘキ
地ノ相場ニ據ルヘキモノナレハナリ

本條ノ第二項ニ記シタル處置ハ重ニ為替ノ
提示・償還要求通知書及ニ拒證書ヲ作ル⁷並
ニ為替訴訟ヲ起ス⁷ニ關スルモノトス斯ノ
如キ處置ハ總テ實ニ之ヲ執行スル地即チ其
處置ヲ行フ者ニ於テ法律上ノ効力ヲ得ニ為
スニ法律ニ從ヒ其處置ヲ執行スヘキ地ノ法
律ニ依ラサルヘカラス此規則ハ獨リ外面ノ
法式ニ關スル而已ナラス併セテ現ニ處置ヲ
行フ時日・方法及ニ必要ニ關スルモノニシテ
此點ニ就テハ總テ其處置ヲ為スヘキ地ニ行
ハル所法律ヲ以テ判定セサル可ナラス
而シテ其地ノ通例拂方ヲ為スヘキ地若ハ

負債者ノ住地ナリト雖此手形ノ文面ニ依ル
ヘキナリトセズ故ニ他ノ地ノ法律ヲ適用
スヘキアリ例ヘハ為替ヲ外國ニ向ケ振出し
タル成ニ外國ニ於テ其列受ヲ為シタルノ後
再ニ内國ニ於テ裏書讓渡ヲ為シタルニ若シ
其支拂ヲ得サル成ハ外國ノ法律ニ據テ拒證
書ヲ作ラサル可カラズ然レ氏内國ノ裏書讓
渡人ニ對シ要償スルカ為メニ其拒證書ヲ用
キルヲ必要トスルヤ否ハ内國ノ法律ニ從ハ
サルヲ得サルヘシ何トナレハ其要償ノ基ト
為ルヘキ裏書ハ内國ニ於テ為セシヲ以テナ
リ若夫其裏書ニ外國ノ地名ヲ記シタル成ハ

外國ノ法律ニ據ラサルヲ得ス
内外法律ノ権限牴觸ニ関スル規則ハ各法律
ニ於テ明記シタルモノ尠ナキカ故ニ概テ萬
國私法ニ於ケル普通ノ原則ニ據テ判決スル
ヲ要ス本案ニ掲ホスル所ノ規則ハ重ニ右様
ノ事項ノ起リタル時ニ必要ナル標準ヲ示ス
モノナリ
本案ニ就テ仍注意ヲ要スルハ外國ノ為替ハ
一ニ外國ノ法律ニ據テ其効否ヲ判定スヘシ
ト云フ是ナリ是レ為替上ノ各個義務及ニ其
文面ニ関シテモ亦然リトス故ニ若シ為替ニ
外國ノ裏書ト内國ノ裏書トアル成ハ外國ノ

裏書ハ外國ノ法律、内國ノ裏書ハ内國ノ法律ニ適ズルキハ有効トス然リト雖氏若シ其為替全体ノ無効ナルキハ其後ニ記シタル所ノ裏書モ亦効力ナキモトス何トナレハ裏書ノ効力ハ必ズ其為替全体ノ効力ニ依レハナリ又縦令ニ最初ニ記載シタル裏書ノ効力ト雖氏其後ニ記載シタル裏書ハ敢テ無効トナルニ非ズ何トナレハ為替義務ハ總テ獨立ノ義務ト見做シ其有効ノ原因ヲ自カラ存スルモノナレハナリ

第七而十條

為替證券又ハ引出切手ノ占有者ニシテ正當ノ方法ニ依リ且甚ニキ怠慢ニ出テスレテ之ヲ取得シタル者ハ其為替證券又ハ引出切手若クハ其代金ノ引渡ノ請求ニ應ズルノ義務ナシ但占有者カ為替證券又ハ引出切手ノ引渡ヲ求ムルノ訴ヲ起シタル場合アルニ當リ之ニ對シテ抗辯ヲ為シ得ヘキ事實ト同一ノ事實ニ因リテ請求セラルル、其ハ此限ニ在ラス

通例ノ原則ニ從ヘハ為替ハ其所有者ニ屬スルモ、ニシテ唯之ヲ占有スル者ハ所有者ノ要求ニ從ヒ之ヲ還付セサル可カラズ然レ

氏為替ノ法式のナル性質ハ為替占有即チ現
有ニ付テ一種特別ノ効驗ヲ生ス其占有ハ正
當ニ之ヲ得タル者タラサルヘカラス即チ一
ニハ裏書又ハ引渡(無記名為替ニ於テ)ノ如キ
為替法ニ適從スル所得起由ニ依リテ占有シ
タルト一ニハ惡意ナク即チ其所得ノ法律ニ
戾ルトヲ知ラス又ハ欲セザリシト又甚シキ
怠慢ニ出テサルト是ナリ通例甚シキ怠慢ハ
惡意ト同一ニ見做スヘキモノナリ例ヘハ輕
卒ニ詐偽ノ為替ヲ所得シタルカ如キハ法律
ニ戾ルノ所得ニ算スルヲ通例ノ原則トス正
當ノ手續ニ依ラサル裏書アルモハ惡意ナキ

モノト視ルヲ得ズ何トナレハ正當ノ手續ニ
依ラサル裏書アルモハ其為替一タロハ正當
ノ方法ニ依ラスシテ所得シタルモノアルヲ
知ラサルヘカラサレハナリ又前所持人ノ其
為替ヲ盜ミ又ハ其他不正方法ニ據テ之ヲ所
得シタルトヲ知リタルモ亦タ同シ且為替ノ
詐偽其他不正ナルトヲ疑フヘキ理由アルニ
拘ラス之ヲ所得シタル者ハ法律上ニ於テ正
當ニ之ヲ所得シタル者ト云フヲ得ス右様ノ
場合ニ於テ疑ヲ生ズルナカラシム為メニ故ラ
ニ太過ノ語ヲ加ヘタリ
獨七國為替法
若シ右ノ要件存スルニ於テハ縱令ニ盜難又

ハ其他ノ損害ヲ受ケタル前所有者ノ要求ヲ
ルモ其占有者之ニ應ズルヲ須ヒス何トナレ
ハ此占有者ハ正當ニ為替ヲ所得シタルカ故
ニ自ラ其所有者ト為リ前所有者ノ其為替ニ
對スル所有權ハ全ク消滅シタルハナリ而シ
テ前所有者其損失ニ就テハ只惡意又ハ過失
ニ據テ之ヲ蒙ラシメタル者ニ對シ損害要償
ノ訴ヲ為スルヲ得ルノミ
然レモ正當ノ所得タル事由ノ存スルモ其占
有者ハ尚ホ其為替ヲ還付セサル可ラサルノ
場合ナシトセズ即チ所得者ニ於テ所得後ニ
至リ其為替ヲ所得シタル權利ヲ失フヘキ事

実アル所是レナリ例ハ抵當トシテ為替ノ
裏書讓渡ヲ為シ而シテ後末其債ヲ拂フタル
カ如キ是ナリ抵當ニ充テタル為替ノ所得ハ
全ク正當ノ所得ナリト雖モ實ニ其債アルニ
非サレハ然ラズ故ニ負債者ハ債主ヨリ其抵
當ノ為替ヲ引渡スヘキヲ要ムルノ訴訟ニ
對シ支拂又ハ免債等ノ故障ヲ申立ツルヲ
得ルト同理由ヲ以テ後ニ至リ債主ニ對シ其
為替ヲ返還スヘキノ請求ヲ為スルヲ得ヘシ
又茲ニ受取人ト為リテ為替ヲ買求シ之ヲ請
取リタルノ後其代價ヲ拂ハサルモハ振出人
ハ賣主トシテ賣買契約上ノ原則ニ基ツキ其

為替ノ返還ヲ請求スルトテ得ヘシ其他為替
ヲ預ケ又ハ委託スルモ亦然リトス例ハ
為替所有者ニシテ商業取次人ニ為替ノ裏書
讓渡ヲ為シ以テ自己ノ為メニ其為替金ノ支
拂ヲ受ケシムルモ所有者若シ其商業取次人
ノ任信スヘカラサルトテ認テ其委任ヲ解カ
シト欲スルモ同レク其為替ノ返還ヲ要求
スルトテ得ヘシ何トナレハ所有者ハ商業取
次人ニ對シ委任取戻ノ故障ヲ申立テ得ル其
他本條ニ掲グル原則ハ列受人ヨリ為替金ヲ
取立テ或ハ買價又ハ其他ノ償ヲ得テ為替ヲ
讓渡スカ如キ為替ノ支拂金ニモ之ヲ及ホシ

タリ此支拂金ハ為替所有者ニ對シテ占有者
ニ不法ノ富ヲ與ヘタルモノナレハ其損害ヲ
受ケタル者ニ之ヲ償ハサル可カラサルト為
替ト同一ナリ而シテ七十一條ニ據テ法第

第七而十一條

盜取セラレ又ハ紛失シ若クハ滅失シタル為替
證券ニ付テハ第四而三條ノ規ヲ適用ス

前條中ニ占有者為替ヲ正當ニ所得シタルモ

後ニ至リ之ヲ還付セサル可カラサル場合ヲ

ルモハ所有者ニ之カ還付ヲ要求シ得ルノ權

ヲ與ヘタルハ所有者其占有者ヲ知り之ニ對

シテ裁判所ニ訴フルヲ得ルモ在リ若シ

為替既ニ存セズ或ハ真正ノ所有者其時ノ所

持人ヲ知ラサル時例ヘハ破船又ハ燒失ニ遭

ヒ又ハ盜難等ニ依リ其權利ナキ者ノ手ニ歸

シタルハ然ルヲ得サルナリ此場合ニ於テ

ハ為替所有者其権ヲ保全スルニ方法種々アリ
ルヘシ殊ニ他人ニ拂渡シ又ハ承諾ヲ與フ可
カラサルトシ支拂人ニ申立テ或ハ其所有ス
ル第二號為替若クハ謄本ヲ用ヒ或ハ第七而
四條ニ從ヒ新ニ別通ヲ作ラシムルトシ得ヘ
シ然レバ此方法ハ為替所有者ノ権ヲ全フス
ルニ充分ナラサルト多シトス夫レ支拂人ヘ
ノ申立ハ他人ニ為替金ヲ拂渡スヲ防遏シ得
ルモ自カラ其拂渡ヲ受ルノ道ニ非ス又假令
ニ拂渡ヲ受クルモ引受人ニ充分ノ保證ヲ立
テサルヘカラス引受人ハ之カ為メニ為替ヲ
提示シテ其支拂ヲ要求スル者ト煩雜多費ノ

訟事ニ陷ヒルトヤナカラス其訴訟ノ結果如
何ニハ類焼或ハ盜難等ニ因テ生シタル損失
ニ係ル所有者ノ證明如何ニニ関スルモ
シテ其所有者ヲ證人ニ立ルハ引受人ニ在テ
甚タ困難或ハ為シ得ヘカラスモノナリ第
ニ號為替ヲ候用スルモ亦困難ヲ免ル能ハ
ス其決テナラサル為替ニ就テハ引受人為シ
タル成ハ仕拂人ハ別通為替ヲ再ニ引受ルト
テ謝絶シ或ハ其引受ノ為メニ為替所有者ノ
恐クハ辨シ得サル保證ヲ要求スルトアラシ
自拂為替ノ如キ引受人ヲ要セサルモ於テ
ハ亦同シ是レ無効告示ヲ為サ、ル可カラ

サル所以ナリ其他仍ホ流通中ノ為替ヲ無効
 ト公告セシムルノ理由アリ例ハ其為替ニ
 シテ流通ノ為メニ定メタルニ非ラス唯タ保
 證ノ為メニ振出しタル時或ハ白地ノ引受即
 チ振出人ノ署名ナクシテ引受シタル為替ヲ
 失ナフタルカ為メニ之ヲ他ノ意思ナキ人ニ
 讓渡スルヲ防クヘキノ如シ
 故ニ右ノ説明ニ由テ考ルニ喪失セル為替ノ
 無効告ホハ畢竟他ノ方法ヲ以テ極フヘカラ
 サルカ或ハ充分ニ極フ能ハサル時ニ必要ナ
 リ是レ又獨逸為替條例第七十三條換西利亞
 為替條例第七十三條ウシガルニ為替條例第

而九十條及ニ第而九十一條ニ於テ掲ケタル
 所ナリ
 無効告ホトハ為替ノ消滅即チ無効ナルトヲ
 告クルヲ之ヲ無効告ホヲナスハ為替ヲ喪失
 セシ者ノ外他ニ之カ権ヲ有スル者ナキヲ必
 要トス因テ他人ノ之カ権ヲ有スルヤ否ヤヲ
 知ル為メ其為替ニ利益ヲ有スル者ヲシテ其
 要求權ヲ執行スルトヲ促カシテ為メニ告示
 手續ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其手續ハ民事訴
 訟法ニ依ルヘシ然レモ左ノ諸要項ヲホスハ
 宜キニ似タリ

第一

為替ノ無効告示ヲ請求スルヲ得ルノ權ハ
獨リ其所有者ニアリ此點ニ就テハ總テ前條
ノ原則ニ據ルヘキモノナリ故ニ其為替假令
ニ最初紛失若クハ竊盜等ニ出ツルモ之ヲ所
得スルニ正當ノ方法ヲ以テシ其所得ニ對シ
一ニ故障ヲ申立ツル者ナキニ其人自ラ所
有者トナリ紛失人或ハ遭盜人ノ所有權ハ消
滅スヘシ是ヲ以テ此ノ如キ所有者ニ對シテ
ハ無効告示其効力ナキモノトス而シテ此所
有者ハ前ノ所有者ヨリ為シタル無効告示ニ
辱ハラヌ自己ノ為替權ヲ施行スルヲ得ヘ
シ如此ナルキハ無効告示ハ裁判所其公告ヲ

為シタル後期限ノ終ル迄ニ所在ノ分ラサル
現有者及ニ惡意ナキニ此等ノ者ヨリ讓受ケ
タル者ニ對シ効力アルノミ

第二

其為替ノ既ニ引受アルヲ無効告示ヲ為スニ
必要トセサルハ前ニ論シタルカ如シ何トナ
レハ引受ヲ拒マレタルニ於テ紛失シタレ
ハ最早振出人若クハ裏書讓渡人ニ對スル要
償權ヲ執行スルヲ得ナルニ至レハナリ夫レ
要償權ヲ施行スル為メニハ一定ノ手續ニ依
リ為替ヲ提テスルヲ要ス然レバ此場合ニ於
テハ為替ノ所有者ノ為メニ無効告示ヲ以テ

之ニ代ヘシメサルヘカラス此列受ノ點ニ付
テハ法律學上各其意見ヲ異ニシ獨逸ノ法律
ニ於テハ之ヲ不決ニ置キ列受ヲ為シタル為
督ニ限ルトテ明言セズウニカルニ為督條例
第百九十一條ニ於テハ未タ列受ナキ為督々
リトモ其無効告示ヲナシ得ヘキトテ間接ニ
許シタリ又佛國高法第百五十二條ニ於テモ
喪失セル為督ノ告示法ニ関シ其列受フルト
否トノ差ヲ立テス獨逸法律學ニ於テモ亦其
必要ナラサルトテ是認スルノ日乙ニ及シ(高
法雜誌第十一卷二百四十四葉)其他無効告示
ハ為督ノ賣主等ニ對スル民事訴訟ヲナスニ

充分ナル證據ヲ得ルカ為ニ紛失者ニ取リテ
必要ナリ況ンヤ其所有者ハ別通ノ為督ヲ拂
出人ヨリ得ル能ハサルノ場合ナシトセサル
ニ於テヲヤ

第三

所在知レサル為督所持人ノ其權利ヲ執行ス
ヘキ期限(無効告示ノ期限)ハ為督仕拂期日ヨ
リ起算スルト(假令ニ告示ノ手續ハ此期日前
ニ始ケルヲ得ルモ)ヲ定メタリ佛國高法第百
五十二條及ニ獨逸為督條例第七十三條ニ於
テモ紛失為督ノ所有者ヲ保護スルハ其仕拂
期日ノ將ニ末ルノ時ヲ待ツモトス是レ為

替ハ其仕拂期日ニ至ルマテ隨分遠國ニ流通
シ後ノ惡意ナキ為替所得者タル者仕拂ノ地
ニ於テ無効公告手續ヲナセシテ知ルヲ難
キカ故ニ然リ然レハ仕拂期日既ニ來ル時ハ
為替ヲ仕拂ノ地ニ送附シ之ヲ提示セサルヲ
得ス故ニ此時ニ於テ始テ其手形ノ所持人ハ
無効公告ノ手續アルヲ知リ其權利ヲ執行ス
ルヲ得ヘシ苟クモ此ニ至リテ其權利ヲ執行
セサル者ハ不正ナル所得者ト見做スヘシ或
ハ然ラサルモ放棄シテ空シク期限ヲ經過シ
タルノ損失ヲ受ケサルヘカラス無効公告ノ
期限ハ事情ニ從ヒ裁判所之ヲ量定スヘキモ

ノニシテ他國ノ為替ニ於テハ内國ノ為替ヨ
リモ其期限ヲ長クセサルヘカラス何レノ場
合ニ於テモ一回以上他ノ萬國ト書信ヲ通シ
得ヘキ時日ヲ與ヘサルヘカラス故ニ今其期
限ハ獨逸法律ニ倣ヒ六ヶ月ヲ最下限ト定ム
然レハ裁判官其期限ニ尚ホ猶豫アルヲ是ナ
リト認ムルハ之ヲ伸延スルヲ得ヘシ是
ヲ以テ此規則ハ為替ヲ無効トスルニハ其仕
拂期日後六ヶ月以上經過スルヲ要スヘキモ
ト解スヘキナリ

第四

為替ノ所有者ハ其為替ノ喪失セシテ知ル

ヤ可及的速ニ其仕拂地ノ裁判所ニ申出テ其
喪失ヲ證明スルニ足ル事實ヲ述ヘサルヘカ
ラス若シ之ヲ遲延スルキハ當ニ其舉證ニ苦
ム而乙テラス併テ其申立ノ信憑ヲ減スルニ
至ルヘシ殊ニ可及的其失ヲタル為替ノ騰水
ヲ差出し或ハ其文面ノ要點及ニ其他為替發
見ノ目標トナルヘキ一切ノ事ヲ示サ、ルヘ
カラス加之其為替ノ所得及ニ其喪失ノ模様
ヲ證明スルヲ要ス然レ氏之カ為メニ充分ノ
證據ヲ必要トスルニ非ス何トナレハ其證據
ヲ得ルノ難キ場合多ケレハナリ

第七而十二條

為替手形ノ引受人又ハ約束手形ノ振出人ニ對
スル為替上ノ請求權ハ満期日ヨリ起算シ三个
年ヲ以テ時効ニ罹リ又所持人若クハ裏書讓渡
人ヨリ振出人若クハ前裏書讓渡人ニ對スル債
還請求權ハ拒證書ヲ作りタル日若クハ請求ノ
通知ヲ爲シタル日ヨリ三个年ヲ以テ時効ニ罹
ル
時効ハ訴ヲ起シ其他各箇ノ裁判上ノ手續ヲ為
スニ因リテ中断セラレ又裁判所ノ判決ニ因リ
又ハ書面ニ明示シテ債務ヲ承認シ新債務ト為
シタルニ因リテ消滅ス

各國ノ法律ニ依レハ為替上ノ要求權ハ通常
ノ要求權ヨリ早ク時効ニ罹ルヲ多シトス何
トナレハ為替ハ恰モ現金ノ如ク流通シ其為
替ニ關係アル人ノ債ヲ或ハ増シ或ハ減シ殆
ント貸方ト借方トノ如ク其現在金高中ニ屬
シ其効力ノ有無及ヒ支拂ノ成否ヲ久ク未決
ニ置ク可カラス若シ之ヲ久ク未決ニ置ク成
ハ商人タルモノ自己ノ支配ニ屬スル資本金
ノ總額ヲ確キト算定スルヲ能ハサレハナリ
是ヲ以テ為替上ノ債ハ權宜ノ然ラシムル所
ヲ限トシ可及的速ニ局ヲ結フヲ以テ必要ト
ス而シテ之カ為メニ第一ニ仕拂期日ニ至レ

ル為替或ハ其他為替上ノ要求權ヲ長年ノ後
効カアラシメサル所ノ規則ヲ設クルヲ要ス
此規則ニ於テ時効ハ殊ニ須要トス何ントナ
レハ時効ハ法律上ノ期限ヲ等閑ニシタル者
ヲ罰スルニ其要求權ノ亡滅ヲ以テスルニ在
レハナリ時効ノ期限ハ各國ニ於テ近世最モ
短縮ス英國及ヒ佛國ニ於テ多少存スル所ノ
古法ハ今日ノ如キ郵便電報蒸氣車及ヒ蒸氣
船ヲ以テ迅速且ツ安全ニ萬國ニ通信スルヲ
ヲ得ル時ニ適セサルヲ明ナリ英國ニ於テハ
今猶ホ六七十年ヲ以テ為替及ヒ其他債ノ要求
權ニ係ル期滿得免ノ期限トス佛國ニ於テハ

高法第百八十九條：從一五ヶ年ヲ其期限ト
ス然レ氏一千八百六十二年五月三日ノ法律
ヲ以テ為替上ノ要求權ヲ執行スルノ期限ヲ
著シク短縮セリ獨ニ(為替條例第七十七條及
一第百條)並ニ埃國ニ於テハ其期限ヲ三ヶ年
トナス然レ氏償還要求權ニ就テハ尚之ヲ短
縮ス以上ニ說キタルモノニ因テ考フルニ今
日ノ情状ニ在テハ三ヶ年ヲ期滿得免ノ期限
トスル一適當且充分トス可シ
又佛國法律ニ據リ為替仕拂ノ要求ト償還要
求トヲ共ニ同一ノ期限ヲ定ムルヲ以テ適當
トス是レ實際ノ利便トスル所ナリ何トナレ

ハ距離ヲ異ニスル各地ノ為ニ各異ナル期限
ヲ算定スルノ勞ヲ省ケハナリ其他拒證書ノ
作成及ニ其通知ヲ以テスル償還要求ノ為メ
ニ(例ハ一佛國高法第百六十六條ヨリ第百
六十九條ニ至ル四條ニ於ル如ク)毫モ伸延ス
可カラサル一定ノ期日ヲ立ルニ於テハ償還
要求權ノ時効ハ支拂要求ノ期限ト殆ニ同一
ナルニ至ル是れ最モ適當ト云ハサルヲ得サ
ルナリ
支拂要求權ハ為替ノ支拂期限ニ至リタルノ
日ヨリ其時効ノ期限ヲ起算ス可シ是レ獨ニ
為替條例第七十七條ニ制定スル所ナリ一覽

直拂ノ為替：在リテハ為替ヲ提示シ或ハ法律上提示シ得ヘキ日ヨリ其期限ヲ起算ス（ラワルド同五百六十七葉）

償還要求權：二種アリ（第一）為替所持人ハ振出人及ヒ各裏書讓渡人：對シ此權ヲ有ス（第二）自己ニ對スル償還要求ヲ充テタル各裏書人ハ總テ先キノ裏書人及ヒ振出人：對シ此權ヲ有ス此償還要求權ハ支拂期日：至リ支拂ノ滞リタルノミヲ以テ生スルニ非ス為替ノ法式的ナル性質：從ヒ償還要求ノ為メ：スル法式上ノ行為ヲ以テ其要求ノ準備及ヒ手續ヲ為ス：依リテ生スルモノナリ法式上

ノ行為トハ即チ為替所有者：在テハ拒證書ノ作成、裏書讓渡人：在テハ先キノ裏書人ヘノ通知是レナリ苟クモ此拒證書ノ作成或ハ通知ヲ為サ、ル者ハ之カ為：其償還要求權ヲ失フ故ニ右ノ場合：於テ時効ノ期限ハ其行為ヲ施ス時ヨリ起算スルモノトス是レ佛國法律ノ基礎トスル主義ニシテ唯々通知ニ代ル：第百六十五條ニ掲載セル裁判手續ヲ以テスルノ差アルニ然リト雖モ訴ヲ以テ正當ノ要求權ヲ生セシメ又併セテ時効：至ラシケルハ其當ニ非ラス通知ヲ以テ時効ノ期限トスルヲ至當トスルニ似タリ何トナレ

ハ二週日内：訴ヲ起スハ多ク困難ヲ免レサ
ルニ通知ハ一ニ遲滯スルヲナク之ヲ為シ得
ヘケレハナリ此理由アルヲ以テ獨逸為替條
例第七十九條：於テモ佛法ヲ採用セサリキ
然リ而シテ通知ハ單ニ書狀ヲ郵便ニ托スル
ヲ以テ之ヲ為シ其通知ノ有無ハ容易ニ證明
スルヲ得ヘシ以テ郵便ニ附シタル書狀ノ文
面ハ其反對ノ證據アルニ非レハ正實ナルモ
ノト思料セサルヘカラス
時効ハ為替金額ヲ支拂フ義務ヲ有スル引受
人ノ利ニ歸シ又引受人ニ代リ其仕拂ヲナス
可キ他人例ヘハ為替保證人若クハ榮譽引受

人ニ及フ又一方ニ於テハ當ニ為替所有者ノ
損失ニ歸ズルノミナラス又夕變則裏書ヲ以
テスル代人或ハ普通讓渡ヲ以テスル權利相
續人ニ及フ佛國法律ニ從ヒ為替所有者ノ裏
書人ニ對スル債還要求權ニ就テ時効アルノ
理ナシト論ズル者アリ何トナレハ其時効ハ
二週日内ニ拒證書ヲ呈シ出訴スルヲ其要求
ヲ為スニ必要ノイトスルカ故ニ時効ヲ許サ
ストスレハナリ(コラワルド第三卷五百六十
葉然レモ總テ訴訟ハ後日中止スルヲ得ヘ
シ若シ二週日内ニ為シタル訴訟ヲ中止スル
片ハ之ニ由テ時効ノ新ナル起期ヲ生ス故ニ

其要求權ノ時効ハ其訴ノ為ニ成之セザルモ
ノトナルニ非ス蓋シ他ノ諸國法律ニ於テハ
固ヨリ斯ノ如キ制限ナシ

本條ノ第二項ハ唯々為替時効ノ中断及ヒ消
滅ニシテ普通ノ原則(第三百四十九條以降)
依ルハハカラサルモ、
限リ論じタリ時効ノ

中断ハ眞ノ出訴或ハ訴訟通知(獨逸訴訟法第
六十九條以下)創産ニ於ル届出ノ如キ訴訟
類スル裁判上ノ手續或ハ被告ノ住所知レサ
ル時裁判所ノ呼出公告ヲ以テ生ス是レ獨逸

為替條例第八十條ニ於テ明ニ掲載ス又佛國
高法第而八十九條ニ於テモ最後ノ裁判上ノ

手續ヲ為シタル時ヨリ算ス云々ノ語ヲ以テ

間接ニ之ヲ掲ケ之カ為メニ裁判上ニ非サル

事由ヲ以テ中断スルヲ禁ス夫裁判上ニ關セ

サル事由ヲ以テ時効ヲ中断スルニ於テハ為

替ヨリ生シタル葛藤ヲ務メテ速ニ免除スヘ

キ實際ノ需要ハ勿論抑モ為替ノ法式的ナル

性質ニ背馳スルニ至ル然リ而シテ時効一旦

中断スル時ハ其期限ハ更ニ此時ヲ起期トス

ル下ハ民法ニ依ルト雖モ此新期限ハ更ニ三

ケ年ヲ以テ終ル下論ヲ待タス何トナレハ為

替ノ事件ニ就テハ期限ノ長キヲ許サレハ

ナリ是レ亦タ佛蘭西及ヒ獨逸ノ裁判習慣ニ

於ラ是認ヲ經タルモノトス「ブラワルド」第三
卷五百六十八葉「ボルシヤルト」獨逸為替條例
註釋第六百九條

之：反シテ時効ノ乙：經過シタル上ハ縱令
ニ其關係者ノ間ニ如何ナル權利義務ノ存ス
ルモ或：時効ノ期限ヲ起ス「十」故ニ改障
ナク時効終ル時ハ第三而五十二條：從ニ為
替負債全ク消滅ス然リト雖モ時効ノ未タ終
ラサル前：被告裁判ノ處分ヲ受クル時ハ債
主ノ權利ハ其判決ヨリ新：生スルノ權利ト
ナリ此權利ハ敢テ三ケ年ノ短縮ナル期限ニ
從「テ」要セス抑モ此三ケ年ノ期限ハ三ケ年

以內：其訴訟ヲ始メテ之ヲ終ルハキモノト
解スヘカラス何ントナレハ債主ノ意：出テ
ス「テ」訴訟ノ久シク引延スル「テ」アレハナリ
故：訴訟中ニ權利ノ時効ニ罹ル「テ」ナシトノ
元則（一旦訴訟ノ起リタル「キ」ハ其訴訟ノ続ク
間ハ權利ハ皆「テ」時効トナレ「テ」ナシ羅甸語）ハ
又々爰：適用スヘシ是「テ」以テ時効ノ未タ經
過セナル前ニ訴訟ヲ起レタル「キ」ハ其終局ノ
何レノ時：在ルハ問「フ」所：非ス其他佛國商
法第百八十九條及ニ民法第千三而三十七
條：倣ニ為替負債ヲ改テ新負債トシテ承認
スル「テ」以テ三ケ年ノ期限ハ消滅ス

總テ、仕拂約束、關スル義務ノ承認ハ第三
而五十條、從ヒ盡ク時効ヲ中断スヘシト雖
此原則ハ為替ノ法式的ナル性質ニハ適用
スルヤ得ズ即チ其承認ヲ以テ特別ニ訴ヘ
得ヘキ新負債ヲ作ルヲ必要トス故ニ此承認
アルヤ為替負債ノ消滅スルヤ恰モ裁判所ノ
判決ニ出ルカ如シ蓋シ判決ハ必要ノ義務更
新ノ力ヲ有スルモノナリ然リ而シテ其承認
ハ必ス明ニ書面ヲ以テスヘキモノニシテ或
ハ新為替ヲ出シ或ハ他ノ證書ヲ與フルヤ
リ即チ前者ノ場合ニ於テハ以前、為替負債
ニ代ルニ新為替負債ヲ以テシ後者ノ場合ニ

於テハ總テ為替法ニ從ハサル他ノ負債ヲ以
テスルナリ唯々前為替中へノ書入レヲ以テ
此効驗ヲ致ス能ハス此ノ如キ書入ハ唯ニ時
効ヲ中断セシトスルニモ不充分ナリ況ヤ為
替手形ニ新訴訟權ヲ與フルニ於テヤ
為替延期ハ右ノ承認ト異ニシテ假令ニ實際
時効ノ中断ヲ為スト雖此唯々為替ノ支拂期
限ヲ伸延スルニ止マリ以テ其時効ハ新ニ定
メタル支拂期日ヨリ起算ス故ニ此延期ハ時
効ヲ中断スルニ非ラスシテ新期限ヲ起ス然
レニ其實ハ同一ナリ(ホ)ト三而七十
九條)

時効ノ中断及ニ消滅ハ之ニ関係アル人ノ
ノ得失トナルモノニシテ自餘ノ為替債主或
ハ負債者ニ関スルモノニ非ス若シ然ラザル
トハ為替ニ属スル要求上ノ関係ノ法的十
ル不拔ノ性質ニ背馳ス故ニ一裏書人ニ對シ
訴訟ヲ起シタルカ為メニ他ノ償還義務者ニ
對スル時効ハ中断セラル、トナシ又裏書人
ノ一ヨリ訴訟ヲ起スニ他ノ償還要求者ノ権
利ニ存ル時効ノ經過ニ障碍ヲ生スルトナシ
然リト雖モ一人ニシテ同時ニ諸権利者ノ代
人トナルトモ之ト異ニシテ設ヘハ為替所持
人白地裏書ヲ以テ其裏書人ノ被托タルトテ

述ヘテ訴訟ヲナス時ハ此訴訟ニ由テ時効ハ
其裏書人ニ向テモ亦中断セラル、トアルヘ
シ(ボルシヤルト)説明而九十一葉

第七百十三條

一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ為替證券ニ在ラハ
時効ハ呈示ニ付キ規定セラレタル期間ノ滿了
ヨリ始マル但其滿了前ニ呈示ヲ為シタルハ
其呈示ノ日ヨリ始マル

一覽拂ノ為替ハ確定ノ滿期日ヲ有セス支拂
ノ為メ為替ヲ提示シタルノ日ニ從ヒ其滿期
日定マルノ特質アリ而シテ此提示ハ全ク為
替所有者ノ隨意ニ任ス今此所有者ヲシテ其
滿期日ヲ恣ニ引延スルイ能ハカシモノカ
為メ法律ニ於テ授キスヘキ一定ノ期限ヲ設
クルヲ常トス獨逸為替條例第十九條ニ於テ

ハ此期限ヲ二年ト定メタリ是ニ於テ此ノ如
キ爲替ノ時効ハ其日附後ニケ年ヲ經過セシ
後ニ於テ起算ス若シニケ年ノ未タ經過セサ
ル前ニ於テ爲替ヲ提示シタル時ハ此日ヨリ
時効ヲ起算ス然レモ他ノ場合ニ於ケル如ク
満期日ハ算入スヘカラヌ即チ時効ノ第一日
ハ仕拂日ノ翌日ナリ故ニ設ヘハ明治二十二
年一月三十一日ニ振出しタル爲替ヲ同年七
月三十日ニ提示シタルモ時効ハ同年七月
三十一日ヨリ起算スヘシ然レモ二十二年一
月三十一日ヨリ二十四年一月三十一日マラ
ノ間ニ提示セサル時ハ其時効ハ乙ニ二十四

年二月一日ニ起ルヘシ

第七而十四條

為替證券ヨリ生スル請求權ヲ時効ニ因リ又ハ
法律ニ規定シタル行為ヲ怠リタルニ因リテ失
ヒタル者ハ其失ヒタルニ拘ハラズ支拂人振出
人又ハ裏書讓渡人ニ對シ此等ノ者カ支拂ハカ
ル為替資金若クハ取戻シタル為替資金ニ因リ
テ已レヲ利シタル限度ニ於テ右請求權ヲ主張
スルイヲ得第七而十一條ノ場合ニ俾ルモノト
雖モ亦同シ

本條ニ説ク所ヲ燦然明瞭ナラシメン為メニ
ハ先ツ三箇ノ條件ヲ嚴ニ區別スヘシ

第一

為替代。即々為替所持人、為替ヲ得タル為
メ拂フ報酬

第二

為替金。是レ列受人ヨリ為替所持人ニ拂フ
ヘキモノニシテ若シ支拂ハサルキハ償還要
求ヲ以テ所持人ヨリ振出人或ハ裏書讓渡人
ニ就テ之ヲ取立ルヲ得ヘシ

第三

資金。是レ為替支拂ニ供スヘキモノニシテ
支拂人ノ手ニアルヲ常トス其金高ハ直接ニ
振出人ヨリ仕送ルカ或ハ差引計算ニ依テ常
ニ支拂人ノ手ニ存セサルヘカラス

本條ハ唯ニ此第三項即々為替備金ニ関スル
モノニシテ先キノ二項ニ関スルモノニ非ラ
ス是レ本條ヲ解釋スルニ方リ至當ノ範圍ヲ
超過セサル為メ嚴密ニ注目スヘキ所ナリ
例ヘハ為替ノ時効ヲ經過シ或ハ拒證書ノ作
成及ヒ償還要求ノ通知或ハ訴訟等ノ延滞ノ
為ニ為替上ノ権利ヲ失フタル成ハ為替ニ對
シテ拂ヒ受ク可キ金額ヲ失ヒ之カ為メ乙レ
カ財産中ニ一部ノ損失ヲ生スルメ疑ヒナシ
而シテ此損失ハ假令ニ其為替ヲ他人ヨリ贈
與サレ若クハ之ヲ格外廉價ニ求メ或ハ之ヲ
拾得シタル成(正當ナル拾得者トシテ其為替

ヲ保有シ得ヘキハ、限り是レ固ヨリ希レナ
リト雖、氏亦タ存スルモ、ナリ何トナレハ為
替ハ何レノ場合ニ於テモ、必ず貸方財産ノ一
部分ヲ為スモ、ニシテ財産ノ一部タル為替
金額ヲ失フタレハナリ夫為替所持人ハ、乙レ
ノ怠慢ニ由テ其損害ヲ来タセシヲ以テ、又其
損失ヲ負ハサルヲ得ストノ言ヲ為スヲ得ヘ
シト雖、氏法律ハ自ラ罪ナク、或ハ宥恕スヘキ
情狀ニ由テ損失ヲ被ケル者ヲ併セテ保護ス
可キモ、ナレハ茲ニ此義ヲ適用ス何ントナ
レハ、為替法ハ嚴守タル法式の性質ヲ有シ
終始異常ノ規則ヲ掲ケ、通常例規ノ外ニ出ル

ヲ以テ通常ノ思慮ヲ備ヘ、尋常ノ注意ヲ加フ
ル人皆ナ容易ニ錯誤ヲ生スル者ナレハナリ
此ニ所謂怠慢ハ主トシテ錯誤或ハ無學ヨリ
生スルモノナルカ故ニ之レカ為ニ害ヲ蒙ム
リタル者ニ直ニ其責ヲ負ハシム可カラス、是
レ為替法ニ於テ斯ノ如キ錯誤等ヲ回復スヘ
キ方便ヲ定ムルヲ權宜トスル所以ナリ、就中
為替ヲ用ユルノ日、猶淺ク嚴格ナル法式ニ熟
スルハ、幾多ノ年ヲ積マサルヘカラサル所
ニ於テハ、最モ然リ其無罪ナルカ、或ハ許容ス
ヘキ遲延ノ如何ハ之ヲ證明スルナラ要セス
法律上ニ於テ既ニ存スルモノト看做ス可キ

モ、シテ本條ハ之カ為メ、他國ノ法律ニ
依リ事情ニ依リ多少其損失ヲ回復スヘキ方
法ヲ設ケタリ然レモ之ニ就テハ區別ヲ立テ
サルヘカラス

為替代即チ為替ノ報酬價格ニ就テハ絶ヘテ
還付ヲ要求スルヲ能ハス何ントナレハ是レ
契約若クハ其他權利上ノ取引ニ基クモノニ
シテ其取引ハ為替ニ記載シタル人ニ一モ関
涉スルヲナク且其文面ニ就テ認知スヘキ者
ニ非サレハナリ故ニ為替ヲ買ヒ其代金ヲ拂
フタル者ハ其買價ヲ再ニ取戻セント要求ス
ルヲ能ハス又物品ヲ引渡シ買主ヨリノ支拂

ニ為替ヲ受取リタル者ハ再ニ買價ヲ要求シ
或ハ其物品取戻ヲ要求スルヲ能ハス何トナ
レハ買取或ハ支拂ノ為メニ得タル為替ヲ儘
ニ領收シタル者ニシテ若シ自己ノ掌中ニ於
テ之ヲ一片ノ空紙ト成シタルモ是レ皆自
己ノ罪ニシテ其相手人ヨリ賠償ヲ要求スル
能ハサルヲ尚ホ現金ニテ受取リタル代價ヲ
途中ニ於テ失フタル時或ハ不注意ヨリ紙幣
ヲ燒失セシモノ等ノ如シ
又タ己ノ不注意ニ出テ為替金或ハ償還金ノ
要求權ヲ失フタル後再ニ之ヲ要求スル能ハ
サルヤ論ヲ俟ス若シ然ラサルモ之レカ為

ニ時効並ニ法式的ノ規則其効驗ヲ失フニ至
ラシ此規則ノ必要ナルハ為替債券タル性質
ヲ支拂上ニ維持スルニ在リ故ニ為替所持人
為替ノ時効ヲ經過シ或ハ拒證書ノ作成ヲ遲
延シタルニ方リテハ時効ノ未タ經過セズ或
ハ拒證書ノ作成遲延セサルモノ、如ク為替
ノ支拂ヲ要求スルニ能ハス苟クモ此ノ如ク
ナラサルニハ為替法ハ其所以アリテ然ル所
ノ法式的ノ規則ヲ併セテ廢セラル、ニ至ル
ヘシ引受人振出人等ハ此ノ如キ場合ニ於テ
モ事情ニ由リ隨意ニ出テ榮譽ノ為メニ支拂
ヲ得ヘシト雖モ法律ハ強テ之ヲ拂ハシム

ル能ハス何トナレハ法律上ノ規則ハ互ニ相
戾ルヘカラス徳義上ノ負債ヲ以テ法律上ノ
負債トナラヘカラサレハナリ
資金ハ之レト異ナリ資金ハ為替ノ支拂ヲ目
的トシ契約ニ隨ヒ為替所持人ニ屬スルモノ
ニシテ其取立マテ唯々一時他人即チ支拂人
ノ手ニ在ルノニ酷ニ論スレハ為替所持人ノ
権ハ乙ニ消滅シタルカ如シト雖モ資金ハ應
ニ誰レノ手ニ歸スヘキヤ為替所持人ニ歸セ
スシテ將タ誰レニカ歸セン何トナレハ他ノ
之ニ關係アル人ハ皆ナ之ニ就テ正當ノ要求
権ヲ有セサレハナリ法律ハ為替所持人ニ損

害ヲ被ラシメ支拂人振出人等ニ実個ノ理由
ナク唯々法式ニ依リ偶然不正ノ利ヲ得ルニ
至ラシム可カラス由テ此損害ト利得トノ間
ニ於テ權宜ヲ酌ニ被害者ヲ助ケ其賠償ヲ得
セシメ以テ為替法ノ嚴酷中ニ寬恕スル所ア
ラシ此理由ヨリシテ損害ヲ被リタル為替所
持人ハ資金ヲ以テ僥倖ヲ得ル者ニ對シテ訴
訟ヲ為スヲ得ヘシ

此點ニ就テハ左ノ如キ諸説アリ

第一

為替所持人ハ引受人ニ對スル要求權ノ時効
ヲ經過シ或ハ其他怠慢ヨリシテ之ヲ失フタ

ルキハ振出人並ニ裏書人ニ對スル償還要求
權ヲ有セス為替金ノ要求權ハ全ク消滅スル
ヲ多トス然レモ資金乙ニ引受人ノ手ニ渡リ
引受人之ヲ以テ無根ノ利害ヲ占メタルトテ
證明シ得ルキハ其引受人ニ對シ訴訟ヲ起シ
以テ其損失ヲ回復スルトテ得ヘシ「
」第三卷四而五十一葉

第二

所持人ニシテ振出人ニ對スル要求權ヲ時効
或ハ豫決裁判ニ依リテ失フタルニ方リ振出
人若シ其資金ヲ支拂人ニ引渡サス或ハ支拂
人ノ支拂義務消滅シタル後ニ再ニ之ヲ取戻

シ以テ己ヲ利シタルキハ總テ普通ノ場合ニ於ケル如ク唯ニ直接ノ現金拂或ハ資金ノ現金拂戻ヲ為サシメ得ヘキノミナラス凡ソ差引計算及ニ其他債ノ作用ヲ以テスル各種商業計算上ノ殺除ヲ為シ得ヘシ(佛國商法第百七十一條ニ於テ「パール、コント」或ハ「コンパンサレヨシ、オン、オートルマシト唱フル受レナリ」ブラワルド第三卷四而七十七葉)為替所持人ハ此場合ニ於テモ振出人カ其資金ニ依テ己ヲ利シ自己ハ其損失ヲ被リタルトテ證セサルヲ得ス然レモ為替支拂ニ至ラサルモ支拂人並ニ振出人ニ於テ利得ヲ受ケサルトナ

シトセス即チ為替振出人唯々名ノミニテ其實他人例ヘハ委託者若クハ其他ノ取引仲間ノ計算ヲ以テ振出しタル時ノ如シ斯ノ如キ場合ニ於テハ他人ニ對シ無根ノ利ヲ占メタルノ訴訟ヲ為スル能ハサルヘシ何トナレハ此他人ハ全ク為替関係者ノ外ニアル者ニシテ若シ為替所持人ニ與フルニ此ノ如ク一モ為替上ノ義務ヲ有セサル他人ニ對スルノ權利ヲ以テセハ其權宜ノ度ヲ超ユルモノナレハナリ又振出人實際支拂人ニ資金ヲ拂フハ義務ナキニ即チ支拂人唯々名ノミ存スルニハ振出人無根ノ利ヲ占ムルモノナリ此場合

於テハ振出人ハ為替代ヲ受取人ヨリ受テ
其資金ヲ拂ハサリシモノナレハ若シ此振出
人ニ對シ償還ヲ要求シ得ヘカラサルニ於テ
ハ振出人ハ報酬ナクシテ純利ヲ占ムルモノ
ナリ然レモ受取人ハ此場合ニ於テモ為替代
ヲ振出人ニ支拂フタルナラバ證明スルニ
唯振出人ノ資金ヲ支拂人ニ送ラスシテ之ヲ
現有ニ居ルナラバ證明スルニトス
裏書讓渡人ノ乙ヲ利シタルナラバ證明スルハ
甚タ困難ナリ何トナレハ裏書讓渡人ハ資金
ヲ拂フヲ須ヒス其為替所持人トノ關係ハ資
金ニ在ラス唯タ為替代ニ在ルヲ以テナリ裏

書人ハ為替ヲ振出サス或ハ振出人ヨリ或ハ
受取人ヨリ或ハ其後ノ所持人ヨリ之ヲ得タ
ルモノニシテ所謂之ヲ買ヒ之ヲ賣ル者ナレ
ハ為替代ヲ以テ利得ヲ占ムルアルモ決シテ
資金ヲ以テ然ルヲ得ス是ヲ以テ裏書人ニ對
シ無根ノ利ヲ占ムタリトノ新訟ヲ許ス可カ
ラストノ説ヲ為ス者多シ此説ハ和蘭高法第
而九條第二而一條及ニ獨乙為替條例第八十
三條ニ於テモ採用セラレタリ(テラワルド第
三卷四而七十八葉以降ヲ參考スヘシ)然レモ
佛國高法第而七十一條並ニ西國法律第五而
四十一條ニ於テハ裏書人ニ對シテモ右ノ新

訟ヲ許ス本案ハ此主義ヲ執ル夫レ裏書人ハ
資金ヲ以テ乙ヲ利スルト必スシモナシトセ
ス例ハ振出人唯名ノミニシテ受取人ヨリ
支拂人ニ對シ資金ヲ送ルノ義務ヲ有スル場
合ニ於テ然リ其他自己指名爲替ノ第一ノ裏
書讓渡人ニシテ併セテ振出人タル時ハ乙ヲ
利スル訴訟ヲ受ケサルヲ得ス總テ裏書人ハ
自ラ爲替所持人振出人若クハ支拂人ニ對シ
資金ヲ拂フ可キハ於テ必ス資金ヲ送ル義
務アル者ナレハ時効ニ由リ此資金ヲ以テ使
得ヲ得ルトナシトセス例ハ數人互ニ爲替
負債ヲ契約シタルニ資金ハ差當リ備置ヲ要

セス各同約者ノ出金署名簿ノ割合ヲ以テス
ルカ如キ約束ニテ其義務アルモヨリ之ヲ
支拂フ可シトスルハ其義務アル裏書人獨
リ其資金ノ要求ニ遇ヒ若クハ是ニ依リテ利
得ヲ占ムル者ナリ是則テ外國假名爲替振出
ノ習慣ウエクセルライテライニシテ假リニ
裏書人ヲシテ資金ノ義務ヲ負ハシム此ノ如
キヲ防ク亦其宜ヲ得モナリ或ハ裏書人ハ
契約上資金ノ義務アルモ法律上其義務ナク
以テ此ノ如ク他人間ニ取結ヒタル契約ニシ
テ爲替ニ関セサルモヨリ爲替所持人ニ權
利ヲ與フルノ理ナシトノ説ヲ爲シ得ヘシト

雖凡無根ノ利ヲ占ノタルトノ訴訟ハ振出人
若クハ裏書人ノ資金義務ヲ基因トスルニ非
ス無根ノ利ヲ占メタルトノ訴訟ハ即チ為替
義務者ノ一人正當ナル理由ナク資金ヲ占領
シ以テ為替所持人ノ損失ニ乘シ自己ノ利ヲ
占ムルノ事實ニ関スルモノナリ若夫裏書人
ニシテ取引上ノ関係或ハ作用ヨリシテ隨意
ニ振出人ノ擔當スルハキ資金ノ義務ヲ擔當シ
タル成ハ裏書人ハ為替所持人ニ對シ然ルヘ
キ責ニ任セサレテ得ス
此訴訟ヲ起ス為メニ為替ヲ提テスルハ必ス
シモ必要ニ非ス故ニ紛失或ハ盜難ニ遭タル

等ノ為替ニ付テモ訴訟ヲ為ス¹テ得ヘシ(高
法雜誌第十三卷三而五葉)是レ為替ノ紛失等
ニ依リテ權利ヲ失フ¹多キカ為メニ緊要ナ
リ又原告ハ訴ヘ出ルノ時被告猶其利ヲ有ス
ル¹即チ其資金若クハ其代物ヲ引續現有ス
ル¹テ證明スルヲ須ヒス唯其資金ヲ所持シ
原告ニ與フル¹テクシテ之ヲ返還シ或ハ之
ヲ引渡シタル¹トシテ證明第六而六十七百五而
トスボ¹ルシヤルト¹親明第六而六十七百五而
十五葉
無根ノ利ヲ占ノタルノ訴訟ハ即チ為替訴訟
ナリ故ニ其時効ハ第七而十二條ニ定メタル

期限ヲ以テ終ルヘシ而シテ其期限ノ起等ハ
根本ノ訴訟カ時効トナリタル日或ハ法律ニ
定メタル處置ヲ急リタルカ為メニ為督要求
權ヲ失フタル日ニアリトス此訴訟ヤ為督訴
訟ニシテ特ニ為督法ニ屬スルト一般ノ是認
ヲ經タル所ナレハ為督訴訟ノ普通ノ原則ヲ
爰ニ適用スヘシ
獨逸為督條例ニ於テハ此方法ヲ以テ併セテ
時効ノ結果ノ嚴酷ヲ宥メルノ方法トス此方
法ヤ事件ヲ明了ニスルニ簡易ナルヲ以テ本
案之ヲ採用ス何トナレハ此訴訟ハ為督法固
有ノ嚴酷ナル期限ニ對シ緩慢ニスルヲ防メ

ノ救助法ナレハナリ

第七百十五條

總テ為替證券ニ署名ヲ為シタル者ハ此ニ因リ
連帶シテ義務ヲ負擔ス然レモ此連帶義務ハ各
義務者ニ於テ特立ノモノトス
為替ノ訴ハ其總員ニ對シ又ハ其一人ニ對シテ
之ヲ起ス得

本條ニ於テハ為替負債者ノ連帶義務ノ原則
ヲ説クモノニシテ(佛國高法第四百十條而
六十四條獨逸為替法第四十九條ブラジル
第三冊第二百廿一條)英國ニモ亦同一ノ規則
アリ此連帶ハ為替義務ノ物件(為替金)ノ同一
ナルニ因テ生スニ為替義務者ノ任意即チ契

約上ノ義務ニ因ルニ非ス故ニ人ノ同一タル
トテ併セテ包含セズ之ヲ要スルニ狭キ意義
ニ於ル合一連帯(コレレアリテト)ニ非ス即
チブラワール第三冊第二而世葉ニ言ル如キ
不完全ノ連帯ナリ是ヲ以テ一人ニ對シ訴訟
ヲ起スモ其他ニ對スルノ要求權利ハ消滅セ
ス一人時知ニ罹ルモ他ハ皆ナ然ラズ又分擔
或ハ先訴ノ申立ヲ為スヲ得ス即チ各義務者
ニ於テ特立ノモノナリ
第一項ニ此連帯義務ハ特立ノモノトセリ然
ルモハ為替ノ訴ニ必ス各箇ニ為サ・ル可カ
ラストノ疑ニ無キ能ハス故ニ第二項ニ於テ

其然ラサルヲ示ス即チ義務者ノ總負ニ對シ
之ヲ一人トシテ訴ルトテ得是連帯ノ本旨ナ
リ

第一節 為替手形

第一款 振出

第七而十六條

為替手形ニハ左ノ諸件ヲ明瞭詳密ニ記載スル
トシ要ス

第一 振出ノ日附及ニ場所

第二 為替金額但文辭ヲ以テ記ス可シ

第三 支拂人ノ氏名

第四 受取人ノ氏名又ハ其指圖セラレタル
人若クハ所持人ニ支拂フ可キ旨及ニ満期

日并ニ支拂地

第五 為替手形ト引換ニテ支拂フ為ス可キ

第六 振出人ノ署名捺印

他拂為替ノ自拂為替ト其性質ヲ異ニスルハ
乙：第六而九十九條ニ於テ汎ク説明セリ他
拂為替ニハ常ニ三人ノ關係アリ振出人、支拂
人及ビ受取人トナリ振出人ハ支拂ノ依頼ヲ
為シ支拂人ハ支拂ヲ為シ受取人ハ支拂ヲ受
ル者ナリ若シ此一人欠ルアレハ他拂為替ハ
不完全ニシテ為メニ無効ナリトス總テ為替
法ニ循ヒ事件事情及ビ其仕拂義務ノ嚴ニ就
テ疑ヒ無カラシムル為メニ必要ナルモノハ
為替上ニ記載シ其文面上ニ於テ瞭知ス可カ

ラシム可シ何トナレハ為替ノ法式的ナル性
質ヨリシテ為替上權利ハ偏ニ其文面ニ依テ
判ス可ケレハナリ

日附及ビ場所即振出ノ地詳細完全ヲ要スル
普通ノ理由ヨリシテ總テ法式的ナル他ノ文
書即チ公證々書、遺言書、委任狀等ト同シク為
替上ノ標準タル可キモノニシテ特ニ為替ニ
在テハ特別ノ原由アリテ一層其必要ヲ加フ
何トナレハ第七而九條ニ循ヒ何地ノ法ヲ以
テ為替振出ヲ論スヘキヤハ場所ノ如何ヲ以
テ定ムルモノニシテ為替文面ニ判然セザル
可カラサシハナリ其他日附ハ既成ノ事實ヲ

示スニ非スシテ意趣ヲ申述スルモノナレハ
日附ヲ為スハ拂期日ノ後ニ在ルカ如キ為ス
可カラサルナレバ無レハ隨意ニ定ムルヲ得ヘシ
又日附ニシテ不正タル時ハ不正ヲ知リタル
者ノ為メニ其為替無効トナル日附後某期限
内ニ支拂期日ヲ定メタルモ(例ヘハ日附ヨ
リ四週間内)日附ノモトモ必要ナルイ自カラ明
ナリ是レ一覽拂ノ為替ニ在テモ必要トス此
點ニ就テハ後ニ至テ詳論セシトス
為替金額ハ為替義務ノ物件ニシテ即為替面
ニ掲記セサル可カラス此物件タル必ス確定
セシ金員タルヘク未定轉易ノ金員或ハ他ノ

物品タルヲ得ス為替金額ハ後日關係人ノ約
定或ハ他人ノ干涉或ハ未必ノ變事或ハ其時
日ノ經過(例ヘハ利子ノ日ヲ逐フテ増加スル
カ如シ)ヲ以テ左右スルヲ得ス故ニ利子ノ約
ト為替ハ並立スル能ハス然レ氏之ヲ以テ為
替ニ依リ利子ヲ取ル能ハサルモト為ス可
カラス為替金ハ概ニ資本ト利子トヲ包含ス
然レ氏利子ハ豫カレソ之ヲ算定シ資本ト合
一ニシテ以テ確定セシ金員ヲ成スノミナリ又
為替義務ノ物件ハ必ラズ金員タルヲ要ス何
トナレハ金錢ノ價位ハ官府之ヲ定メ各人授
受スルニ當テ必ラズ據ラサル可カラサル一

定不易ノモノニシテ交通上確定ノ物品ナレ
ハナリ若シ夫レ他ノ諸物品ノ供給ハ不確定
ノ義務ナリ何トナレハ是レ義務者ノ権内ニ
在ラズ又裁判執行ヲ以テ實行シ得ヘキモノ
ニ非サレハナリ一定不變ノ義務ハ常ニ變更
スルナキ金位ニ對スルモノニシテ物品ノ
如キハ總テ為替ノ融通ヲ支障スヘシ何トナ
レハ一般融通ノ能力アルモノハ獨リ金銭ナ
レハナリ又有價證券ハ勿論正貨ト雖其唯
タ高品タルハキ點即チ高低常ナキ所ノ珍奇
ノ貴金族タル價位ヨリ論スレハ為替義務ノ
物件タルヲ得サルナリ之ニ反シテ紙幣、銀行

紙幣ハ是レ硬貨ニ均シク金銭ノ効用アルヲ
以テ之ヲ金銭ノ種類ト視テ為替金ニ供スル
ヲ得ヘシ(スミス氏英國高法第二而二葉四號
ノ注解ヲ參考スヘシ)
以上論シタル原則ニ外觀ニ涉ルニ個ノ例外
アリ其一ハ相場ヲ有セス且流通貨幣トシテ
通用セス若クハ支拂ノ地ニ在テ通用セサル
幣種ヲ以テ為替金トスルヲ得ル是レナリ支
拂ノ地ニ在テ通用セサル貨幣トハ外國貨幣
ヲ云フ外國貨幣ヲ為替金ト為スナリ得ルハ
必スシモ一般ニ通用スルモノナルヲ要セス
唯タ銀行兩換等ニ於テ商業上ノ通用スルノ

點ヨリ論シテ自カラ明ナリ故ニ外國ノ貨幣
ヲ為替金トナスハ其貨幣支拂地ニ於テ少ナ
ク凡銀行等ニ授受セラル、凡ニ限ル然レ凡
實ニ外國貨幣ヲ支拂フノ趣意ニ非スレテ唯
便宜ノ為メ之ニ因テ為替金高ヲ表示シ其
ハ支拂ノ地ニ通用セル貨幣ノ支拂ヲ目的ト
シタルトナシトセス加之是レ反テ常例ト看
做スヘシ何トナレハ支拂ヲ為スハ第一其地
ノ通貨ヲ以テスヘキモノト思料セサル可カ
ラサレハナリ(第七而五十四條)且此思料ハ流
通セサル貨幣ヲ以テシタル場合ニ於テモ其
當ヲ得タルモノニシテ殊ニ此場合ニ於テハ

貨幣稱呼額ヲ以テ支拂フ不能ハサルカ為メ
ニ最モ然リ故ニ右等ノ場合ニ在テハ支拂地
ノ通貨ニ於テスル金額ヲ以テ為替負債ノ物
件(即チ為替金)トナシ其額ヤ支拂期日ニ於ル
支拂地ノ稱呼額相場ニ從フ例ハ為替金高
英貨セ「ポイント、ステルリング」タリ而シテ此貨
幣ノ支拂地ニ於ル相場ヲ「ポイント、ステルリ
ンク」ニ就キ五弗トスル片ハ其為替金高ハ而
弗ナリト視ルヘシ(獨逸為替法第三十七條)然
レ凡此相場タルマ日毎ニ高低スヘキカ故ニ
則チ為替金ハ為メニ確定ナラス時々ノ相場
ニ從ヒ或ハ九十九弗ニ下ルアリ又百一弗ニ

上ル下アルヘシ是レ固ヨリ上ニ説明シタル
原則ノ例外タリト雖此例外ハ為替通商上
全ク貨幣及ヒ為替ノ相場ニ着眼シテ計畫ス
ル所アルヲ得ナルヲ以テ商業及ヒ交通上ニ
欠クヘカヲサレ需用アリテ然ル(若シ此例外
ヲ許サレハ於テハ為替交通上ニ貨幣及ヒ
為替ノ相場アルヲ得ナルニ至レハナリ)ノ
ナラス總テ貨幣負債ノ性質ノ然ラシムル所
ナリ凡貨幣負債ナル者ハ汎ク各種ノ貨幣ヲ
以テ拂フ下ヲ得ル負債ニシテ複本位ノ主義
ニ依リ一國內ニ於テ種類ヲ異ニシ又各國間
ノ通商ニ於テ然ルモノ皆ナ同シ故ニ金額ハ

支拂ノ地ト時ニ由テ金貨又ハ銀貨ニ於ル種
々ノ額ヲ以テ表スルヲ得ヘシ若夫為替ニ於
テ此ノ如キ貨幣使用ノ自由ヲ抑止セント欲
セハ是レ貨幣ヲ束縛スルモノナリ且酷ニ論
スルキハ右ノ如キ為替金ノ額ハ不定轉易ト
謂フヘカラス唯々豫知セサルノニシテ數
則ヨリ自カラ生シ恣マニ定ムヘカラサル
相場ノ計算ヨリシテ自然ニ確定スルモノナ
リ
其第二ノ例外ハ即チ為替金ノ傍ニ附記スル
ニ(或ハ其價格)トノ語ヲ以テスル下ヲ得ル是
レナリ此ノ所謂價格為替ノ効力ニ就テハ駁

論アルヲ免レスト雖氏獨國ニ在ラハ裁判上
之ヲ是認ス(トヨール氏為替法論第四十七條
高法雜誌第十六冊第六而四十七葉以下)其疑
義トスル所ハ幾許ノ金高或ハ其價格ト云ハ
ル語ハ以テ交互代用ノ義務ヲ表スルモノ
ニテ其義務ヲ履行スルニ彼ヲ以テスルモ
ヲ以テスルモ一ニ負債者ノ選フ所ニ任スル
カ為メニ義務ノ物件初メヨリ確定セスト云
ニ在リ然レ氏之ニ對シテ金額ヲ定ムルト貨
幣ノ種類ヲ定ムルトヲ混スハカラストノ言
ヲ為スヲ得ヘシ夫レ金額ヲ支拂フニ百種ノ
貨幣ヲ以テスルヲ得ルハ當然ナレハ之ヲ為

替上ニ明言スルモ妨ケナレ何トナレハ此明
言ニ依テ負債者其欲スル所ニ隨テ支拂フノ
權ハ契約者ノ隨意ヲ以テ得タルニ非ス貨幣
ノ性質ノ然ラシムル所ニシテ之ヲ義務者ヨ
リ奪フヘカラサレハナリ故ニ(或ハ其價格)ト
云ヘル所記ハ其為替ニ定メタル金額ヲ支拂
フニ支拂地ニ於テ流通スル諸種ノ貨幣ヲ以
テスルヲ得ト云フニ過キスシテ固ヨリ當然
ノイナレハ亦タ明述ヲ須ヒス第七百七條ニ
從ヒ之ヲ存セサル者ト視做シ其為替ニ記ス
ル金額ヲ拂フニ一種ノ貨幣ヲ限リ他ノ貨幣
ヲ以テスルヲ禁スルニ非サルモト解スヘ

レ例ハ横濱ニ於テ支拂ヘキ為替ニ於テ金
高英貨セ「ポンド、スラムリン、グ」或ハ其價格ト
記シタルキハ其所持人獨リ英國ノ通貨ノ
ヲ請求スルヲ得ス總テ該地ニ流通スル諸種
ノ貨幣ヲ受取ラサル可カラス是レ其附記ナ
キ時ト雖モ亦然ルヘキナリ若夫或ハ其價格
ト云ヘル語ニシテ果シテ文互代用ノ義務ヲ
目的トシ例ハ高岳證券又ハ勞役ノ價額ヲ
指スニ於テハ為替負債不定ニシテ附記ハ法
律ニ戻ルモノト看做スヘク故ニ此ノ如キ為
替ハ無効ナリ然リト雖モ是レ三々或ハ其價
格トノ附記アルヨリシテ自カラ然ルモノト

判定ス可カラス若シ其為替ニシテ別ニ加書
ナキ時ハ則チ有効ナルモノト看做サ、ル可
カラサルナリ
為替金額ハ明確安全ノ為メ文辭(一万五千八
百四)ト書スルカ如(五)以テ之ヲ記セサル可カ
ラス何トナレハ數字(一五八〇)ハ錯誤ヲ生シ
易ケレハナリ此外為替面ニ其金額ヲ複記シ
其額ヲ賭易カラシムルハ常例ニシテ此複記
ヤ數字ヲ以テスルモ又全ク載セサルモ妨ケ
ナク唯ク關係人ノ隨意ニ任ス然リ而シテ若
シ為替ノ本文ニ記シタル金額ト本文外ニ記
スル金額ト相違スル時ハ常ニ本文中ニ記載

シタルモノニ依ラサル可カラス何トナレハ
是レ契約上ノ旨趣ノ真目的ト視ルヘキモノ
ニシテ他ハ皆ナク外部ノ理由ヨリ加記シタル
モノナレハナリ

獨逸為替法第五條ニハ手形面ニ於テ幾重ニ
モ為替金額ヲ記載シ其金額ノ相ニ違フハ
本字ヲ以テ記載シタルモノニ依リ又本字ノ
ニテ記載シ或ハ數字ノニテ記載シタルモノ
相戾ル片ハ其小額ナル者ニ依ル可シトス此
規則タル殊ニ後ノ一段ニ至テ大ニ其當ヲ失
フ前項ニ論シタルモノハ實際ニ便ニシテ又
學說ニ稱フニ似タリ例ヘハ為替ノ本文ニ三

萬圓ト記シ其上欄ニ於テ錯誤ヨリ偶本字ヲ
以テ三千圓ト記載シタラシムハ獨逸法ニ依
レハ三千圓ノ金高反テ効力ヲ有シ債主ハ為
メニ此錯誤ノ為メニ二萬七千圓ノ損失ヲ蒙
ムル此ノ如キ苛酷ノ結果ハ唯々外面上推宜
ヲ得タル如クナルモ其實專裁ニ出ル解釋法
ヲ以テ之ヲ債主ニ蒙ムラシムヘカラス蓋シ
為替義務物件ハ隨意ノ欄外文字等ニ依リテ
之ヲ認定スヘカラス必スヤ契約ノ趣意ヲ表
スル真ノ文面ヲ以テ認ムヘキト當然タリ又
貨幣ノ種類ニ相違アリ例ヘハ本文ニ弗トシ
欄外ニ圓ト記シタル片モ之ヲ判スル亦タ右

同シク本文ニ記シタルモノヲ眞トスヘキ
ナリ
支拂人ノ姓名ハ爲替面ニ記載シテアラサル可
カラス否ラサレハ支拂ヲ爲スヘキノ人ヲ以
ク商人ハ勿論殊ニ商業會社ニ在ラハ其人ヲ
表スルニ通稱ニ代ヘテ高號ヲ以テス商業會
社ニ就テハ其高號ヲ記スルニ非サレハ詳細
明了トセス故ニ其一社員ノ姓名ノミヲ以テ
足レリトセス然レモ各國商人ニ於テハ假令
ニ通稱ノ外ニ高號ヲ有スル時ト雖モ會社ト
異ニシテ其高號ヲ記スルモ明了クナリ
シト雖モ是レ唯々其商人ノ身ヲ指スモノニ

テ其高號ヲ目的トセス若シ其高號他人ニ移
リタル時ハ其讓受人ニ於テ爲替ヲ承諾スル
ハ無効トス故ニ其人ヲ指スカ或ハ其高號ヲ
指スノ意ナルカニ隨ヒ注意スル所ナカルヘ
カラス而シテ姓名或ハ高號ハ詳細明了ニ記
載シ人ヲシテ復々其罪ニテ何人ヲ指スカノ
疑ヲ起サシムルナキヲ要ス其姓ヲ書シテ
其名ヲ脱シ若クハ其住地ヲ脱シ若クハ其姓
名ヲ誤書スルモ必スシモ之ノミヲ以テ其爲
替無効トナルニ非スト雖モ必要ノ明了ヲ缺
トノ結果ニ至ル容易ナリ例ヘハ一〇藏ト市
〇藏トハ同人ニ非ス又十次郎ト十治郎ト別

人タルカ如キ是ナリ夫レ宛名ノ不充分ナル
トアルモ支拂人ノ完全ナル正當ノ署名アル
ハ之ヲ以テ宛名ノ不充分ヲ補テ得ヘシト
雖凡可及的宛名ヲ詳細完全ニ記載シ以テ疑
ノ生ズルヲ防クヲ良シトス支拂人ノ住地ヲ
記スルハ姓名ハ勿論殊ニ高號ヲ明白ニスル
為メニ必要ナルニ止マル何トナレハ唯々支
拂地ヲ記載シタル時ハ既ニ充分ナレハナリ
然レモ支拂人ノ住地ニ於テ支拂ヲ為スヘキ
時ハ名宛人ノ姓名ニ併セテ住地ヲ記載スル
ヲ以テ宜ヲ得タリトス之ニ反シテ名宛人ノ
住居ニシテ為替面ニ記載シテラサル時ハ支

拂地ヲ以テ其住地ト看做スヘシ
支拂ヲ受クヘキ者ノ氏名ヲ掲クルハ重要ナ
リ是レ其名或ハ高號ヲ記スルヲ常例トシ其
住地ヲ記スルハ必シモ要用ニ非サルナリ何
トナレハ任拂ハ必シモ其住地ニ於テスルニ
非サレハナリ(第七百五十五條)茲ニ其差圖セ
ラレタル人若クハ所持人ニト掲ケテ氏名ノ
語ヲ加ヘサル者ハ為替ニ記セサル人ニモ拂
フテアレハナリ故ニ左ノ如ク數様ニ記載ス
ルヲ得ヘシ曰ク内山八助ニ曰ク内山八郎或
ハ其指名人ニ曰ク内山八助或ハ所持人ニ曰
ク所持人ニ是レナリ前ニ記スル第六百九十

九條ノ説明ニ依レハ爲替ハ何レノ場合ヲ問
ハス讓渡シテ爲シ得ヘキ者ニシテ假令ニ指
名スル丁ナキハト雖モ亦然リ何トナレハ
爲替ハ各國ノ高率慣習ニ徴スルモ亦之ヲ各
國ノ法律ニ徴スルモ自然ニ此性質ヲ有スレ
ハナリ

満期日即チ支拂日ハ第七而十九條ニ於テ詳
細ニ定メリ總テ爲ス可カラサル支拂期日例
ヘハ支拂期日ニシテ振出ノ前ニ在ルカ如キ
成ハ其爲替無効タリ期日不定或ハ重複ナル
モ亦然リトス不定トハ例ヘハ五月一日迄ニ
ト記載シアルカ如キ是ナリ何トナレハ五月

一日ニ至ル迄ハ其間何時ト雖モ支拂ヲ爲ス
ヲ得ヘク以テ數多不定ナル拂ヒ期日ノ存ス
ルアレハナリ支拂期日ハ常ニ必ス一定日ニ
限ル隨意或ハ偶然ノ事情ヲ以テ左右ス可カ
ラナルモノタル可シ然レモ其支拂期日既ニ
明知スヘキ成ハ足レリトス

又年號ヲ記載シ有ラサレハ振出日附ノ年ト
視ルヘシ月ヲ記セサルモ亦同シ若夫支拂
期日ノ爲ス可カラサルモニ於テハ右ト異
ニシテ此場合ニ於テハ爲替ハ無効ニ歸ス爲
ス可カラサル支拂期日トハ二月三十一日三
月三十六日等ト記載シアルカ如キ是ナリ外

國ノ為替ニシテ *Indt* 或 *Supp* ノ畧語アレハ本
月或ハ本年ノ謂ニシテ是レ其日附ノ本月本
年ヲ指スモノトス又 *date* 或ハ *de*
date . トハ即チ日附ヨリ起算シテノ義ニシ
テ例ハ *date* 三ヶ月ト記載シアルハ振出日
附ヨリ三ヶ月ト云ヘル義ナリ若夫三ヶ月ニ
トカ又ハ一歳ニトノミ記載シアレハ不充分
ナリ何トナレハ其日附ヨリ起算スヘキ一ハ
自カラ知ルヘキモノニ非サレハナリ或ハ十
二月下旬一月中旬ト記載シアルカ如キ亦同
シ加之支拂期日ハ他ノ事實例ヘハ預告ノ如
キモノヲ以テ束縛スヘカラス預告ハ特別ノ

法律上ノ處置ニシテ一覽拂為替ノ提示ト混
同スヘカラス
支拂ノ地ハ地名ヲ稱スルモノニシテ例ヘハ
東京横濱ト唱フルカ如シ支拂地ハ必ス記セ
サルハカラス英國銀行ノ倫敦ニ在ル獨逸帝
國銀行ノ柏林ニ在ルカ如ク住人ノ住地一
般ノ知ル所ニ係ルモノ亦々記載セサルヘカラ
ス何ントナレハ支拂人ノ住地ヲ以テ支拂地
トスル一自然明ナリトスルヲ得カレハ十
リ支拂ノ地ニシテ記載シアラサル時ニハ支
拂人ノ宛名ニ付記シタル地ヲ以テ支拂地ト
ナスヘキ一ハ既ニ論シタリ若シ數多ノ支拂

地ヲ記載シアルハ其為替ハ則チ無効ナリ
ト雖氏支拂地ト支拂人ノ住地ト、異ナルハ
假令ニ兩者ヲ併セテ記シタルモ支障スル所
ナシ同名ノ地數多アル中ハ其實ニ目的トス
ル地ハ特ニ之ヲ示サ、ルハカラス然レ氏是
レ亦タ宛名承諾又ハ提示、於テ終ニ確知セ
ラル、トアリ支拂ノ地ハ必ス一定セサル可
カラス若シ何ノ地ニテモ或ハ支拂人滞在地
ニテ云々ノ語アレハ為替ハ為メ、其効ヲ失
フナリ然レ氏右ノ要件タル之ヲ解釋シテ
嚴、過、可カラズ何トナレハ事情ニ依リテ
疑惑ヲ絶ツトアレハナリ殊ニ關係者ノ間ニ

於テ充分協議確定シタル如キ時ハ最モ然リ
獨逸為替法及ニ其他二三國ノ法律ニ由レハ
其手形ニ為替ト明記スルヲ以テ為替ノ要件
トナス他ノ諸國ノ法律ト同シテ草案ニ之ヲ
採用セサルハ第六而九十九條ニ在テ説明シ
タリ為替ノ要件ナルモノハ專ラ為替引換ニ
テ支拂ヲ為スヘキモノニシテ提示ノ外ニ制
限アルトナシト云フニ過キス若夫他ニ制限
アルハ為替ヲ以テ無効トナシムルナリ例ヘ
ハ預告報酬差引勘定其他總テ某事實ノ生ス
ルヲ待テ支拂ヲ為スヘシトスル如キ是ナリ
為替負債ハ制限ナク獨立スルモノニシテ他

ノ権利上ノ関係トノ聯絡アルヲ許サス加之
支拂ノ日確定シタル場合ニ於テハ一覽ノ為
ノ授手スヘシトノ制限ヲ支拂上ニ加フルヲ
許サス何トナレハ其日ニ至リ果シテ授手ス
ヘキヤ否ヤハ初ヨリ知ルヘカラサレハナリ
ホルレマルド第六十二葉又支拂期日ノ不定
ナルト例ヘハ結婚ノ日ニ於テトホヘル如キ
ハ同ク為替ノ性質ヲ廢滅スルモノナリトス
何トナレハ結婚ノ果シテ之アルヘキヤハ未
タ必セサレハナリ又或ル契約ニ依ラズト
ノ約束ノ如キハ是レ則チ為替上ノ約束ニ非
ラズ為替文面ハ他ノ契約ニ附帶スルヲ得

ス然ラサレハ為替義務ヲ論スルニ他ノ契約
ヲ以テスルニ至レハナリ
振出人ノ署名ヲ要スルハ言ヲ俵々ナルモノ
ニシテ署名ハ為替ノ紙尾ニ記セタル可カラ
ス何ントナレハ振出人ハ此ノ如クニシテ前
文ヲ承認スレハナリ故ニ他ノ處ニ署名ナル
ハ不充分ナリ然レ氏受託者ニシテ為替ヲ振
出スルハ委託者ノ氏名ヲ本文中ニ記載シテ
受託者其紙尾ニ署名スルヲ以テ充分トス此
場合ニ於テモ亦商人ニ在テハ高號ヲ記スル
ヲ必要トシ住地ヲ記スルハ必要ニ非ス何ト
ナレハ日附ニ添エルノ地名ハ住地ノ記載ニ

代ルモノナレハナリ又茲ニ豫メ注目スヘキ
振出人ノ署名必シモ本人ノ手ニ成ルヲ要セ
ス唯々其為替面ニ記載アルモノハ為替ノ法式
的ナル性質ニ充分適合スルト云フニ在リ(第
七而二十一條)

本條ニ記列スル他挿為替ノ要件ハ為替面ニ
欠クヘカラサル者ニシテ苟モ其要件ノ一々
リトモ之ヲ缺ケハ即チ為替上ノ義務ヲ生ス
ルナシ又其要件ノ記載ニシテ必要ノ明瞭
詳細ヲ欠ク時モ亦然リ何トナレハ其意義及
ニ文句ノ明ニカナラサル言ハ則チ存セサル
者ト視ル可ケレハナリ其果シテ明瞭詳細ナ

ルヤ否ヤハ事實上ノ問題ニシテ各場合ニ當
リ裁判官之ヲ断セサルヘカラス此ニ就キ既
ニ上ノ説明ニテ其要ヲ示シタルカ如ク此問
題ハ何レノ場合ニ於テモ專ハラ為替面ニ依
テ判定スヘク特別ニ證明スヘキ他ノ事情ヲ
酌量ス可カラス何トナレハ為替面外ノ酌量
ハ為替ノ法式的ナル性質ヲ破レハナリ而シ
テ文字ノ讀ム可カラス解ス可カラサル例
ハハ文字ニ代ヘテ隨意ノ印線ヲ記シ又ハ疑
フヘキ改竄アルモノ即チ外面上不明瞭ト稱
スルヲ得ヘシ無筆ノ者ハ代人ヲシテ署名セ
シメ自己捺印シテ通常ノ方法ニ依リ裁判所

或ハ公證人ノ公證ヲ受クヘシ改竄塗抹等ハ
多少變造ノ嫌疑ヲ起シケルモ、十レハ成
ル可ク之ヲ避ケサル可カラス若シ唯タ誤字
ノ改書ニシテ關係者ノ面前ニ於テ之ヲ爲シ
相當ノ附言ヲ以テ承認スル時ハ其害ナシ若
シ否ラスレテ爲替中ノ文字ニ改竄等アレハ
不明瞭トシ無効トセラル、ノ危險ヲ蒙ルニ
至ルヘシ

他挿爲替ノ無制限ナル必要、外仍キ制限
的ノ必要アリ是レ他佛爲替ノ起原ノ効力ニ
關係セス唯タ附帶シテ生スル爲替取引即チ
爲替上ノ陳述ニ關係スルモノナリ若シ此爲

替上ノ陳述ニシテ生シタルハ爲替面ニ記
セタル可カラスト雖モ必シモ生スルモノト
スヘカラス以テ此陳述ナキモ爲替ハ完全有
効タリ此ニ屬スルモノハ第一裏書讓渡承諾
榮譽承諾、抵當爲替、トシ次ニ自己ノ計算ヲ以
テ他人ニ爲替ヲ振出サレタル者ノ氏名豫
備宛名他處挿入、爲替保證人其他某義務ノ擔
任又ハ拒絕(例ハ無義務無費用無通知)振出
人ヨリ支拂人ヘノ通知(等ノ語ヲ記スル)數
通ノ爲替ヲ振出ス場合、番號(第七百六十六
條及ヒ騰本タルヲ記スル)等即チ是レナリ
不用及ヒ法律ニ戾ル、又面ハ爲替要件ト異

ニシテ(第七而六條及ニ第七而七條)不用文面
ハ為替上ノ義務ヲ生スルトナク又為替ノ効
カヲ害スルトナシ法律ニ戻ルノ文面ハ只為
替義務ヲ生セサル而已ナラス反テ為替ノ効
カヲ全破スルモノナリ彼ノ例ハ利息ノ約定
ノ如キ此ノ例ハ為替義務者ノ義務ヲ負フニ
別ニ契約ニ依テスルト云ヘルカ如キ即チ是
ナリ此ノ如キ區別ハ尚ホ下ニ互テ詳明ニ論
スヘシ

為替ハ書面ヲ以テスル法式的ノ契約ニシテ
其必要ナル文言存スルハ筆書ト印刷トヲ
問ハス自筆ト他筆トヲ論セズ其効力充分ナ

リ為替ヲ權利者ニ引渡スハ為替ノ正當ナル
所持人即チ所有主タルニ必要トスルニ非ス
何トナレハ為替ハ契約ナリ為替契約上權利
アル者ハ即チ其手形ノ所有者ニシテ其如何
ナル方法ヲ以テ現有シタルカハ復々問フ所
ニ非ラス遺失又ハ竊取シタル為替ト雖氏例
外アルトナシ然リト雖氏此ニモ猶ホ總テノ
所有物ニ於ケル如ク所有權ト現有トノ間ニ
區別アリ為替ニ於テモ不正當ナル現有者ニ
對シテ權利者ヲ保護スル為メ普通ノ訴訟權
ヲ與ヘタリ(第七而十條及ニ第七而十一條)若
シ夫振出人ヨリ受取人ニ為替ヲ引渡スニ一